

林コミュニティセンター建設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

空港跡地遺跡(亀の町地区Ⅰ) —第2次調査—

2016年3月

高松市教育委員会

例　言

- 1 本書は、林コミュニティセンター建設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書で、高松市林町地内に所在する空港跡地遺跡（亀の町地区Ⅰ）の第2次調査報告を収録した。
- 2 調査地及び調査期間、調査面積は下記のとおりである。
調査地　：香川県高松市林町 329 番地 1、328 番地 4、327 番地 3
調査期間：平成 25 年 10 月 21 日～10 月 23 日（試掘調査）
平成 26 年 4 月 7 日～6 月 20 日（発掘調査）
調査面積：約 842m²
- 3 発掘調査及び整理作業については、高松市教育委員会が実施し、補助執行により、高松市創造都市推進局文化財課文化財専門員　船築 紀子、同非常勤嘱託職員　磯崎 福子が担当した。本報告書の執筆及び編集は、船築と磯崎が行った。
- 4 報告書執筆にあたって、大野栄一氏から御協力と御教示を得た。記して厚く謝意を表する。
- 5 本報告書掲載の遺物写真撮影は、西大寺フォトに委託した。
- 6 木器の保存処理は、（株）イビソクに委託した。
- 7 本書の挿図として、国土地理院発行 2 万 5 千分の 1 地形図「高松北部」「高松南部」及び高松市都市計画図 2 千 5 百分の 1 を一部改変して使用した。
- 8 本報告書の標高値は東京湾平均海面 (T.P.) を表し、座標は国土座標第Ⅳ系（世界測地系）に換算した。また方位は座標北を表す。
- 9 出土遺構の縮尺は、1/40・1/100 を基本とし、出土遺物の実測図は、土器は 1 / 4、石器は 1 / 2、木器は 1 / 4 を原則とした。
- 10 本書で用いる遺構の略号は次のとおりである。
SD：溝　SK：土坑　SR：自然流路　SP：柱穴
- 11 土壌及び土器観察の色調表現は、『新版 標準土色帖』（農林水産省農林水産技術会議事務局監修・財團法人日本色彩研究所色票監修）による。
- 12 発掘調査で得られた資料は、高松市教育委員会で保管している。

目 次

第1章	調査の経緯と経過.....	3
第2章	地理的環境・歴史的環境.....	4
第3章	調査成果.....	8
第4章	まとめ.....	31

挿 図

第1図	調査位置図 (S=1/5000).....	3
第2図	周辺遺跡分布図.....	7
第3図	空港跡地遺跡(亀の町地区Ⅰ) 遺構配置図.....	9
第4図	SR10 東側・SR10 西側断面図.....	10
第5図	SD 2 平・断面図.....	11
第6図	SD 2 墓出土土器①.....	12
第7図	SD 2 墓出土土器②.....	13
第8図	SD 2 最下層出土土器①.....	14
第9図	SD 2 最下層出土土器②.....	15
第10図	SD 2 最下層出土土器③.....	16
第11図	SD 2 最下層出土土器④.....	17
第12図	SD 2 最下層出土土器⑤.....	18
第13図	SD20 出土遺物.....	19
第14図	その他の遺構出土遺物.....	19
第15図	出土木製品.....	20
第16図	出土石器・金属製品.....	21
第17図	SD30・8 平・断面図.....	22
第18図	SD 1・3・29 平・断面図.....	23
第19図	SD 5・SK 4・6・7・9・21 平・断面図.....	24
第20図	SD17・18・19 平・断面図.....	25
第21図	SD22・25・50・SK51・31 平・断面図.....	26
第22図	SP11・12・13・14・15・16・32・33 平・断面図.....	27
第23図	擾乱検出状況.....	28
第24図	古代条里復元図と格納軸跡の主軸関係.....	29
第25図	遺構変遷図.....	32
第1表	土器観察表.....	33
第2表	木製品観察表.....	40
第3表	石器・金属製品観察表.....	40

写真図版

北側区画全景(東から).....	41
西側区画全景(北から).....	41
南東区画全景(東から).....	41
第2調査区全景(東から).....	42
SR10 東側(北西から).....	42
SR10 西側(南から).....	42
SR10 西側(南から)①.....	43
SR10 西側(南から)②.....	43
SD 2 A 断面(東から).....	43
SD 2・20 C 断面(南から).....	43
SD 2 木製品出土状況(南から).....	43
SD20 上器出土状況(西から).....	43
SD27 断面(東から).....	43
SD30(南から).....	44
SD 8(西から).....	44
SD 1(西から).....	44
SD 3(南から).....	44
SD29(南から).....	44
SD 5(東から).....	44
SK 4(南から).....	44
SK 6(南から).....	44
SK 7(西から).....	45
SK 9(東から).....	45
SK21(東から).....	45
SD22(北から).....	45
SD25(東から).....	45
SD50・SK51(西から).....	45
SK31(南から).....	45
SP32(南から).....	45
SD 2 墓出土土器 1.....	46
SD 2 墓出土土器 2.....	47
SD 2 墓出土土器 3.....	48
SD 2 墓出土土器 4.....	49
SD 2 墓出土土器 5.....	50
SD 2 最下層出土土器 1.....	51
SD 2 最下層出土土器 2.....	52
SD 2 最下層出土土器 3.....	53
SD 2 最下層出土土器 4.....	54
SD 2 最下層出土土器 5.....	55
SD 2 最下層出土土器 6.....	56
SD 2 最下層出土土器 7.....	57
SD 2 最下層出土土器 8.....	58
SD 2 最下層出土土器 9.....	59
SD 2 最下層出土土器 10.....	60
SD20 出土土器.....	61
その他の遺構出土土器.....	62
出土木製品 1.....	63
出土木製品 2・金属製品・植物遺存体.....	64
出土石器.....	65

第1章 調査の経緯と経過

第1節 調査の経緯と経過

平成25年度に高松市林町329番地1ほか（亀の町公園内）に、林コミュニティセンターの建設が計画され、事業課（地域政策課）から教育委員会（以下、市教委）に埋蔵文化財包蔵地の有無の照会があった。当該地は周知の埋蔵文化財包蔵地ではないが、「空港跡地遺跡」に近接することから、試掘調査実施の協議を行い、試掘調査を平成25年10月21日～23日の実働3日で実施することとなった。

試掘調査の結果、当該地に遺構及び遺物が確認できたため、事業課に対して、当該地において保護層が確保できない掘削工事を行う場合は、事前に埋蔵文化財に対する保護が必要である旨を伝えた。

事業課から平成26年2月28日付けで文化財保護法第94条第1項に基づく埋蔵文化財発掘の通知が市教委に提出された。その通知を香川県教育委員会に進達したところ、香川県教育委員会から3月10日付けで事前に発掘調査を行う旨の行政指導があつたため、発掘調査を行うこととなった。

第2節 発掘調査の経過（調査日誌抄）

発掘調査は、掘削により遺構面に影響が及ぶ建物及び浄化槽が配置される箇所について実施した。平成26年4月7日に重機掘削を開始し、6月20日に調査区の埋戻しと調査道具の撤収を終え、現地調査をすべて完了した。調査期間は実働48日である。

調査は廃土置き場の関係から、第1調査区を南東区画と北側区画、西側区画に分け、南東区画から先行して埋戻しを行った。

調査日誌抄（平成26年4月7日～6月20日）

- 4月7日（月） 第1調査区、調査開始。重機掘削。
- 4月9日（水） 遺構検出開始。搅乱掘削。
- 4月15日（火） 重機掘削・搅乱掘削・遺構検出。
並行して遺構掘削を調査区北側から開始（SD1・2・3・SK6など）。
- 4月17日（木） 重機掘削終了。
- 5月7日（木） SR10掘削開始。
- 5月9日（金） 第1調査区南東区画写真撮影。



第1図 調査位置図 (S=1/5000)

- 6月3日（火） SR10掘削完了。
調査区南東区画埋戻し開始。
- 6月5日（木） 第2調査区、調査開始。重機掘削。
- 6月6日（金） 第2調査区遺構掘削。全景写真撮影。
埋戻し。第2調査区調査終了。
- 6月10日（火） 第1調査区西側区画写真撮影。
- 6月11日（水） 第1調査区西側～北側区画写真撮影。
- 6月12日（木） 第1調査区北側区画写真撮影。
- 6月14日（土） 現地説明会。参加者80名。
- 6月16日（月） 第1調査区西側・北側区画埋戻し開始。
- 6月20日（金） 埋戻し完了。調査終了。

第2章 地理的環境・歴史的環境

第1節 地理的環境

高松平野は、北を瀬戸内海、東を立石山山系、南を阿讃山脈、西を五色台山塊に限られた総面積約190 km²の平野である。標高600～1000mの阿讃山脈から瀬戸内海に向かって階段状に標高は低くなり、平野部にいくつかの山塊群が存在する。山塊群は花崗岩丘陵の上に瀬戸内火山岩類が堆積したメサ、あるいはピュート型の溶岩台地で、標高20～300mの低い山塊である。

これらの山塊に囲まれた高松平野は、領家花崗岩の基盤に三豊層群、沖積層が堆積して形成された中位段丘と、沖積低地及び扇状地性の低位段丘から構成されている。栗林公園から久米池を結ぶ標高10m前後を境に地形の傾斜が大きく変化しており、この境界線以北が沖積作用による三角州帯と考えられている。

沖積平野の形成は塩江町に源を発する香東川による影響が最も大きい。春日川、新川といった小河川では扇状地の発達はあまり見られない。小河川には小規模な自然堤防による微高地が点在している。沖積平野の形成以前には、比較的起伏に富んだ地形を呈していたが、河川の沖積作用で埋没・平準化、人間の開墾・開削により平坦化が進んだと見られる。

現在の香東川は寛永年間に治水事業によって改修されたもので、本来の流路は2つに分流しており、その1つは石清尾山塊の東を迂回して広く氾濫していたことが知られている。この旧流路は、現在では水田地帯及び市街地の地下に埋没てしまっているが、空中写真等から、林から木太地区にかけての分ヶ池、下池、長池、大池、旧ガラ池を結ぶ流路等が知られる。その周囲には旧中洲や後背湿地が展開していたことが、過去の発掘調査でも確認されている。

空港跡地遺跡は、高松平野のほぼ中央に位置し、東側は春日川の支流である古川に至り、西側は香東川の旧河道があった、比較的大きな微高地上に位置する。また扇状地の末端部にあたることから出水と呼ばれる自噴地下水脈が豊富で、降雨量の少ない高松平野において、灌漑等に利用されてきた。

第2節 歴史的環境

今回の調査地は旧高松空港用地の周辺に位置し、昭和19年に陸軍林飛行場用地として強制収用された範囲に含まれる。戦後、旧高松空港を除いて再び水田として民間に払い下げられ、この際に圃場整備が行われた。そのため空港跡地周辺の地割は、条里地割の残存する周辺平野部とは異なった地割になっている。

高松平野では、近年大規模な開発事業（高松東道路建設事業、空港跡地開発事業等）に伴う事前調査により、遺跡数が飛躍的に増大しつつある。さらに空港跡地周辺地域の開発が促進されてきており、調査成果が蓄積されつつある。

＜旧石器・縄文時代＞

旧石器時代の遺跡は、周辺では三谷町に所在する横内東遺跡でナイフ形石器が出土し、雨山南遺跡で多量の剣片と共に瀬戸内技法の国府型ナイフ形石器が出土している。

縄文時代では、木太町に位置する大池で縄文時代草創期の有尖頭器が表採されているが、晩期に至るまで高松平野部での人間活動の痕跡はあまり認められない。晩期になると、林町に所在する林・坊城遺跡（1993）の自然河道から土器や石器、木製農耕具等が出土しており、林・坊城遺跡（2004）では刻目突帯文の柱穴群が、はじめて居住痕跡として確認できた。

＜弥生時代＞

縄文時代晚期から弥生時代前期にかけて高松平野の各地で人間活動の痕跡を確認できるようになる。木太町から林町にわたる弘福寺領山田郡田園比定地北地区や林町の浴・長池遺跡I・IIにおいて水田跡が確認されている。明確な居住に関わる遺構は少ないものの、農耕の定着に加え、平野部での集団活動の痕跡が確認できるようになった。

中期になると浴・長池遺跡を除き遺跡分布が丘陵地帯に移動する。

後期では空港跡地遺跡に大規模な集落が形成された。多肥上町の多肥松林遺跡や太田下町の太田下・須川遺跡等で集落を形成したと思われる遺構と遺物が多数確認できる。また高松平野部各地に、土器胎土中に角閃石を多く含む下川津B類土器が多く出土するようになる。

後期後半から終末／古墳時代前期にかけて、平野部にさらに多くの集落が營まれた状況が確認されてい

る。上天神町の上天神遺跡や松縄町の天溝・宮西遺跡のように外來系土器がまとめて出土した集落もある。

<古墳時代>

前期前半では弥生時代終末期から継続する集落が展開する。丘陵・山塊地域に多くの古墳が築造されているが、造営母体となった集落については、中間町に所在する中間西井坪遺跡（1996）で埴輪と土製棺の製作関連遺構が確認されている。

空港跡地遺跡周辺では、古墳時代中期から後期の居住域の存在が確認されている。

<古代>

古代における高松平野は大きく山田郡と香川郡で構成されており、一部阿野郡も含まれている。平野のやや南側を東西方向に横断する南海道が設置され、南北軸が東に約9~11度振れた条里地割が広く施行された可能性が指摘されている。松縄町の松縄下所遺跡（1992）で条里制施行に関連する可能性のある7~8世紀頃の幹線道路状遺構が検出され、太田下・須川遺跡（1995）では自然河川から平安時代の土器と共に斎申、人形、櫛が出土している。また空港跡地遺跡の南側には拝師庵寺があった。

<弘福寺領讃岐国山田郡田園>

現在の奈良県明日香村にあった弘福寺が讃岐国山田郡に領有した寺領内の土地利用の様子を詳細に描写した絵図があり、描写的時期は平安時代後半と推定される。現存する最古の年紀、天平7年（735）を有する莊園絵図であり、当時の集落、耕地の様子が分かるだけでなく、寺領の形態を示す資料として平成3年3月に重要文化財に指定されている。

昭和63年度以降高松平野部での発掘調査が本格化し、それに伴い山田郡田園の位置比定作業が進められ、高松市木太町大池南半から南側の一帯と、旧高松空港の西部から北側の一帯に存在した可能性が高いことが推測された。

弘福寺（ぐふくじ）は別名川原寺（かわらでら）とも呼ばれ、7世紀末、飛鳥の地に建立された。讃岐国ほか多くの寺領を持つなど繁栄したが、9世紀以降衰微し、11世紀には東寺（とうじ）の末寺となった。東寺長者による弘福寺所領の復興が試みられた際に、天平7年の原図をもとに本資料が製作されたと考えられている。

<中世・近世>

平安時代末（11世紀後半）、高松平野では遺跡数が増加し、鎌倉時代以降（13世紀）には多数の集落遺跡が確認されている。その中には、空港跡地遺跡、山崎町の東山崎・水田遺跡、春日町の川南・西遺跡、香西南町の西打遺跡のように区画施設を有する建物群が展開するものもある。

中世における当地域の武士は香西氏、十河氏、由佐氏、神内氏が知られると共にこれら在地武士の居館跡や詰め城等をはじめとした遺跡や遺構が多く確認されている。

近世では、天正16年に生駒親正によって高松城が築かれ、のちに松平氏治下による各地の開墾・開発が進んだ。空港跡地遺跡でも近世の遺構が確認されている。

<高松空港>

高松空港（林飛行場）建設と、周辺の土地開発の経緯について、時系列でみていく。

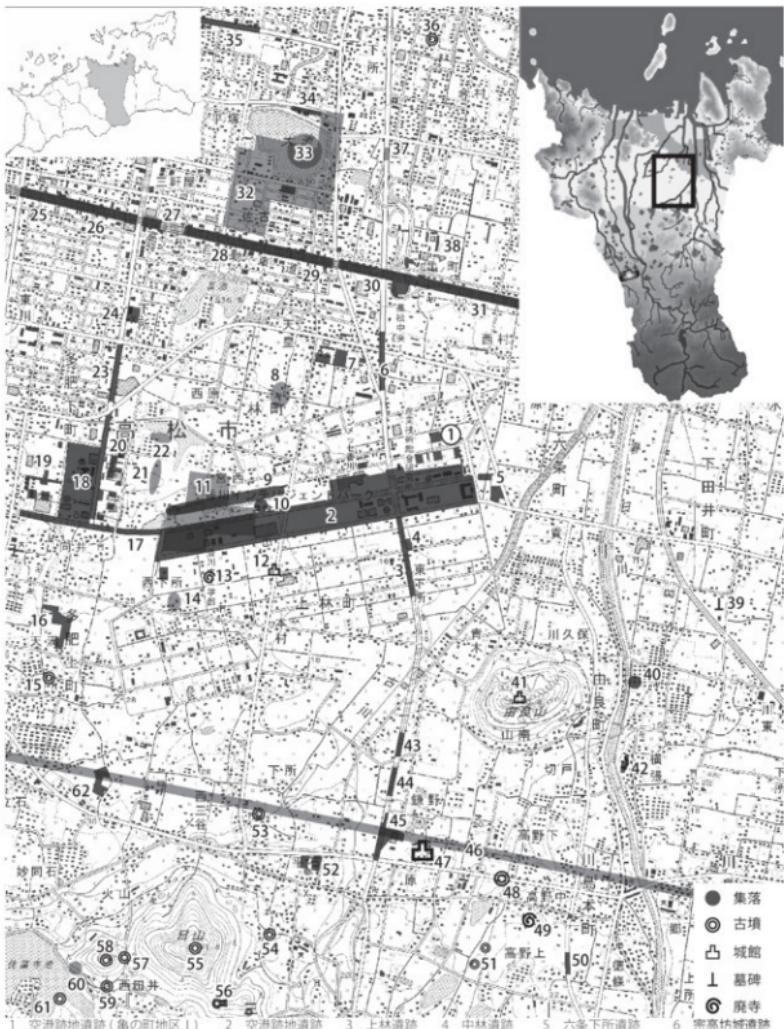
- 昭和19年1月23日…陸軍省航空本部から林村に飛行場設置の決定通知が出され、275戸が立退きを迫られた。岩田神社と拝師神社を六条鹿島神社に遷宮・合祀し、仁池と一部を除く池台池が潰された。川向、上青木、高須、一角等の墓地を長池墓地に隣接して移転。その他多数の塚があつたが、西の方が多いため、平坦にするため崩して東の方へ運ばれた。
- 昭和19年4月中旬…立退きしたところから順次測量され、ただちに工事を勤労奉仕で開始した。
- 昭和19年5月中旬…戦局の悪化に伴い緊急性が増したため、伊丹飛行場の第141野戦飛行場設定隊200人が投入された。
- 昭和19年8月…当初、十字形に滑走路を作る予定であったが、差し迫る状況下で東西方向だけ完成して終わった。
- 昭和19年9月…三重県の明野陸軍飛行場から隊員が来る。
- 昭和19年10月…明野飛行隊高松隊が開隊、射撃訓練を開始する。まもなく明野飛行学校が明野教導飛行師団となり、訓練飛行場から作戦飛行場となる。
- 昭和20年2月…陸軍最高指導方針により本土決戦用として飛行機を秘匿する必要に迫られ、由良山に格納庫が作られ、飛行場から蛸足のような誘導路が作られた。
- 昭和20年7月4日未明…高松空襲。林の陸軍飛行

- 場からは1機も迎撃しなかったという。
- ・昭和20年7月22日…飛行場が機銃掃射を受ける。
 - ・昭和20年7月24日…午後の空襲で飛行場が壊滅。
 - ・昭和20年8月15日…終戦。温存されていた新鋭機61機は飛行場に並べて破壊。
 - ・昭和20年11月9日…爆弾機銃弾等は各所から集められ格納庫に入れられたまま一挙に爆破。飛行場周辺の住宅に被害あり。
 - ・昭和21年7月26日…林飛行場の一部を農耕のために開放する許可が下り、軍当局、県、財務局、地元村立会の上、北側の47町歩を残して農地として開放。
 - ・昭和21年11月5日…開墾起工式。甘藷、大豆等の畑作物を収穫。
 - ・昭和23年…三郎池より導水工事を施工。
 - ・昭和27年…東を流れる古川が雨季に常に氾濫していたため、改修工事を開始。
 - ・昭和30年12月7日…運輸省と林村の協定が結ばれ、北側の47町歩のうち当調査区がある無線標識所を除く14町3反2段14歩が返還された。
 - ・昭和33年…開拓地のほとんどが水田となった。
 - ・平成元年12月…香南町に新空港が建設されて空港が供用廃止になり、高松空港跡地は技術・情報・文化の複合拠点香川インテリジェントパークとして再開発された。
 - ・平成7年…無線標識所跡用地が亀の町公園として整備される。

山本英之 1995『空港跡地道路（亀の町地区Ⅰ）』高松市教育委員会
 山本英之 1995『空港跡地道路（亀の町地区Ⅱ）』高松市教育委員会
 ㈲高松市藤塚町にお住まいの大野栄一氏から当時のことを聞いた（平成27年7月18日）。尋常小学校を卒業後入隊、桜井の出水から土管で上水を供給する仕事をしていて、空港爆撃日は出勤しなかったため、決められていた防空壕に入らなかったから助かった。

【参考文献】

- 高松市役所内林村史編集委員会 1958『林村史』
 高松百年史編集室 1989『高松百年史 下巻』
 高松市教育委員会 1992『讃岐国弘福寺領の調査 弘福寺領讃岐国山田郡田園調査報告書』
 香川県教育委員会 香川県埋蔵文化財センター 香川県土地開発公社
 1996『空港跡地道路Ⅰ』
 高松市教育委員会 1999『讃岐国弘福寺領の調査Ⅱ 第2次弘福寺領 謳岐国山田郡田園調査報告書』
 香川県教育委員会 財團法人香川県埋蔵文化財調査センター 香川県土地開発公社 2002『空港跡地道路Ⅴ』
 香川県教育委員会 國土交通省四国地方整備局 日本道路公団 2004
 『中森道跡 林・坊城道跡Ⅱ 東山崎・水田道跡Ⅱ』
 高松市教育委員会 1987『高松市太田地区周辺道路詳細分布調査概報』
 渡邊 誠 2011『空港跡地道路』高松市教育委員会



- 1 空港跡地遺跡(亀の町地区 I)
 2 空港跡地遺跡
 3 上林遺跡
 4 中林遺跡
 5 六条下所遺跡
 6 宗高坊城遺跡
 7 林宗高遺跡
 8 天皇西原遺跡
 9 宮西・一角遺跡
 10 一角遺跡
 11 弘福寺領田園北地区比定地
 12 上林城跡
 13 拝師魔寺
 14 畦遺跡
 15 天満宮古墳
 16 野郷遺跡
 17 多肥宮尻遺跡
 18 多肥松林遺跡
 19 松林遺跡
 20 日暮・松林遺跡
 21 井手東遺跡
 22 池の内遺跡 I
 23 池の内遺跡 II
 24 多肥下町下所遺跡
 25 蛙股遺跡
 26 石臼遺跡
 27 井手東遺跡
 28 沿・池道遺跡
 29 沿・松ノ木遺跡
 30 林・坊城遺跡
 31 六条・上所遺跡
 32 弘福寺領田園北地区比定地
 33 大池遺跡
 34 上西原遺跡
 35 境目・下西原遺跡
 36 大荒神古墳
 37 木太町九区遺跡
 38 林下所遺跡
 39 高松頼重墓所
 40 大瀬遺跡
 41 由良山城跡
 42 由良南原遺跡
 43 北野遺跡
 44 鎌野西遺跡
 45 三谷中原遺跡
 46 旧南海道路
 47 鎌野城跡
 48 高野丸山古墳
 49 高野魔寺
 50 川島本町遺跡
 51 高野南古墳群
 52 横内東遺跡
 53 加厚屋神社古墳
 54 平石上古墳群
 55 日山頂縫塚
 56 墓
 57 畏山(小日山)
 58 雨山山頂古墳
 59 雨山南古墳群
 60 住蓮寺池古墳
 61 彦作遺跡

第2図 周辺遺跡分布図

第3章 調査成果

第1節 調査の方法

a. 遺構番号と遺物の取上げ

遺構には、遺構の種類に関係なく検出した順番で1から番号を与えた。遺構の種類は、現地での調査所見をもとに性格を判断し、遺構番号の上に遺構の略号を冠した。

遺物の取上げは、遺構単位で、かつ出土土層が明らかな場合は、層位も記載して取上げた。

b. 記録作成

図化作業の際に使用する基準点と水準点は、(株)四航コンサルタントに委託し、世界測地系第IV系・4級基準点を用いた。平面図・断面図ともに手測りで記録を作成した。

第2節 基本層序

調査区の基本層序は、花崗岩の盛土の下に耕作土と底土があり、黒褐色～暗褐色細砂混じりシルト～粘土の古墳時代遺構を確認できる包含層の下に、褐灰色シルト混じり粘土の地山面となる。遺構の大半はこの地山面で確認できた。

第3節 遺構と遺物

弥生時代

SR10(図3・4・14・16)

弥生時代前期の自然流路である。調査区南西から地形の傾斜に沿って緩やかに東に向きを変える。古墳時代包含層を除去したのち、調査区西端で流路西側肩の一部を、調査区中央で南側の肩を検出した。流路幅は確認できた箇所で約10～15m、深さは約0.5～1.2mで、東側ほど深くなる。

西側の埋土は8層で、1層が10YR3/2 黒褐色粘土混じりシルト、2層が10YR2/1 黒色微細砂混じり粘土、3層が10YR2/2 黒褐色細砂～微細砂、4層が10YR4/1 褐灰色細砂～粗砂、5層が10YR3/1 黑褐色微細砂混じり細砂、6層が10YR3/2 黑褐色小礫混じり粗砂～細砂、7層が10YR1.7/1 黑色微細砂～粘土、8層が10YR4/1 褐灰色シルト～粘土である。

東側では、18層の堆積を確認した。一部で調査区壁面の崩壊の可能性があったため、安全を考慮し、掘削を中止した。

埋土は上層の、10YR2/2 黒褐色粗砂混じり粘土から2.5Y3/2 黑褐色中礫混じり細砂～中粒砂までがSR10 西側と対応すると考えられる。14層の2.5Y3/2 黑褐色粗砂～中礫以下の層ではグラウド化が認められ、植物遺存体が多く含む。

遺物は弥生土器底部(178)、スクレイバー(S1)、微細剝離痕のある割片(S2)が出土している。出土遺物の年代から、弥生時代前期と考えられる。

調査区北側溝群

SD2・20・24・26・27・28が合流する調査区北西部は、戦時中～現代の擾乱のため、切り合い関係を確認することができなかった。そのため便宜的にSD20・27・28が合流する箇所をSD26として、SD2・20・24が合流する箇所を、SD2・20合流部として遺物の取上げを行った。

SD2(図5～12・15・16)

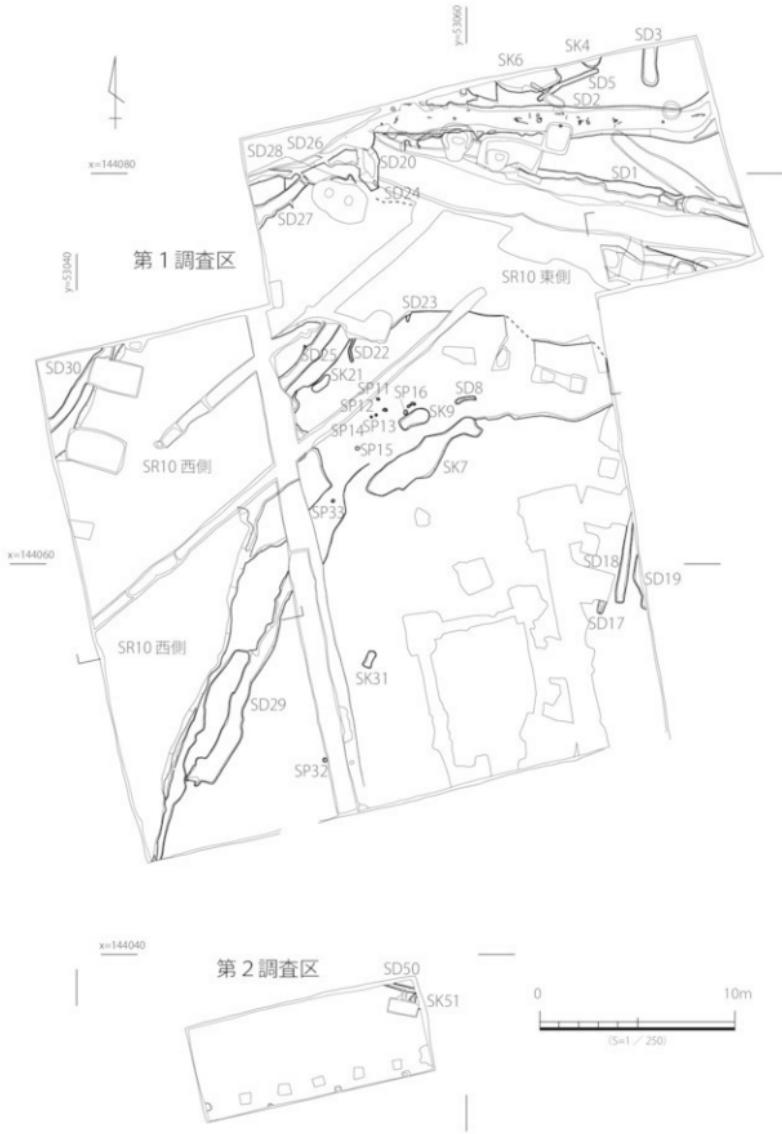
第1調査区の北側を東西に直行し、東端でやや北よりに曲がって調査区外へと延びる。主軸方位はN90°Wである。SD20と合流部まで約18.5mを検出した。SD26・28へと続く可能性がある。幅約2.0m、深さ約0.4～0.66mを測る。断面形は逆台形～方形である。

埋土観察のため、東側からA・Bの順にセクションを設定した。

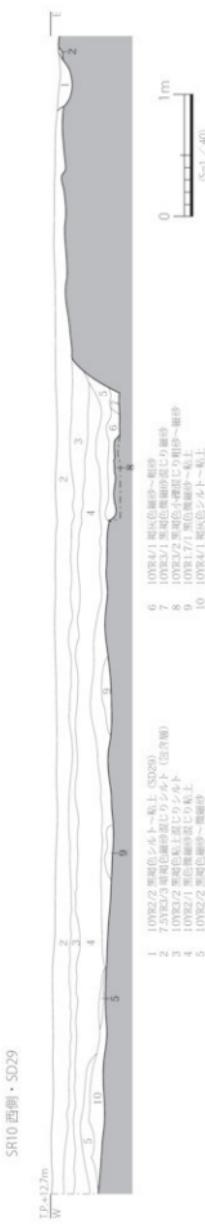
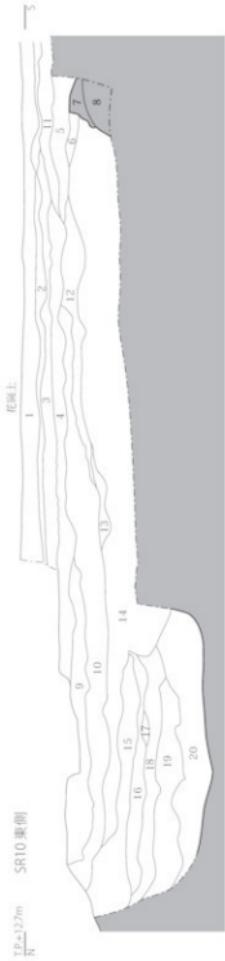
A断面は7層に分層でき、1層が7.5YR1.7/1 黒色粘土で、微細砂を少量・径1～2cmの地山ブロックを斑状に含む。2層が7.5YR1.7/1 黑色粘土で、微細砂少量・径2～10cmの10YR5/3に似た黄褐色粘土～シルト亜角礫状に含む。3層が10YR3/1 黑褐色シルト～粘土、4層が7.5YR1.7/1 黑色粘土。5層が2.5Y3/1 黑褐色微細砂、6層が2.5Y4/1 黄灰色粘土に7.5YR1.7/1 黑色粘土を含む。7層が2.5Y4/1 黄灰色粘土～シルトである。

1～4層までを埋土、5～7層を最下層として遺物の取上げを行った。

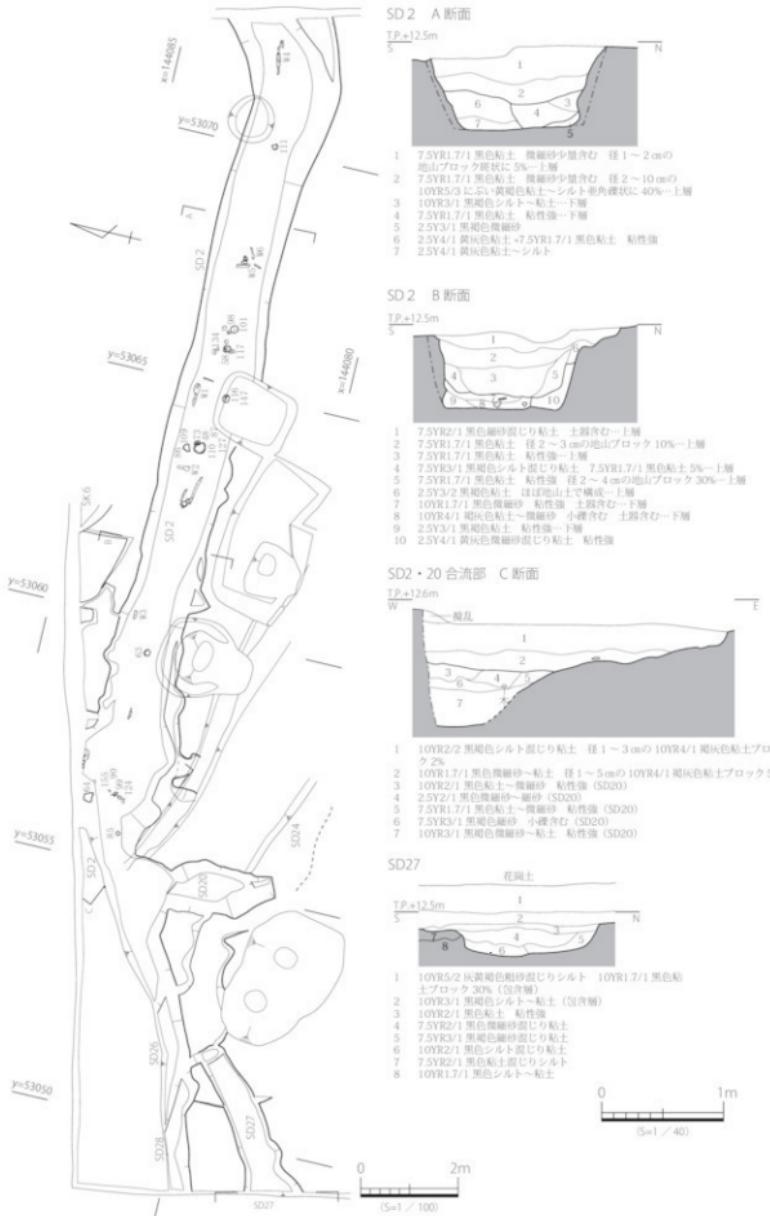
B断面は10層に分層でき、1層が7.5YR2/1 黑色細砂混じり粘土、2層が7.5YR1.7/1 黑色粘土で径2～3cmの地山ブロック土を含む。3層が7.5YR1.7/1 黑色粘土、4層が7.5YR3/1 黑褐色シルト混じり粘土で7.5YR1.7/1 黑色粘土を含む。5層が7.5YR1.7/1 黑色粘土で径2～4cmの地山ブロック土を含む。6層が2.5Y3/2 黑褐色粘土でほぼ地山ブロック土で構成する。7層が10YR1.7/1 黑色微細砂、8層が



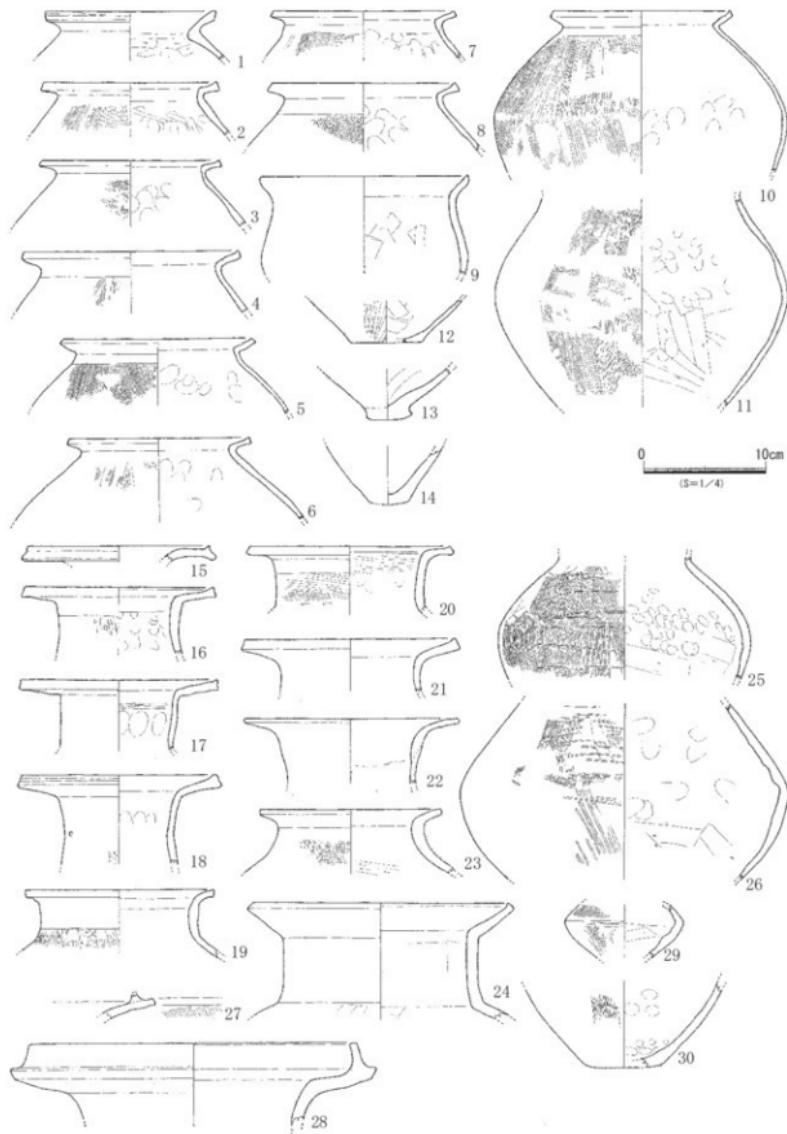
第3図 空港跡地遺跡（亀の町地区I）遺構配置図



第4図 SR10 東側・SR10 西側断面図



第5図 SD 2 · 平・断面図



第6図 SD 2 埋土出土土器①



第7図 SD 2 埋土出土土器②

10YR4/1 褐灰色粘土～微細砂で小礫含む。9層が
2.5Y3/1 黒褐色粘土、10層が 2.5Y4/1 黄灰色微細砂
混じり粘土である。1～6層については、多量の地山
ブロック土が確認できることから、人為的な埋戻し土
の可能性が高い。また7層で確認できた微細砂は、流
水の痕跡と考えられる。

遺物は1～6層までを埋土、7～10層を最下層と
して遺物の取上げを行った。埋土と最下層から多量の
弥生土器と木器、石器や桃の種(図版24)などの植
物遺存体が出土した。

遺物は、埋土から弥生土器甕(1～11・13・14)、
壺(15～26)、二重口縁壺(27・28)、小型丸底壺(29)、
高杯(31～34)、鉢(36～42)、蓋(35)、製塙
土器(43・44)、機種不明木製品(W 7～W12・
W15)、敲き石(S 6・S 7)が出土している。

最下層から弥生土器甕(45～73)、壺(74～
79・86～88・95～98・101・102)、長頸甕(80
～84)、小型丸底甕(85)、二重口縁甕(89～94)、
高杯(104～124)、鉢(125～143)、製塙土器(144
～154)、器台(155)、鉢(W 1)、泥除け(W 2)、
柄(W 6)が出土している。

出土遺物の年代から、弥生時代後期中葉～後葉と考
えられる。

出土遺物は、埋土と最下層から出土した土器に接合
関係があるものが多数確認できた。また離れた箇所か
ら出土した遺物に接合関係があるものもあり、溝が人
為的に埋戻される過程で、集められ、一度に廃棄され
たと考えられる。

SD20(図5・13)

調査区の北側で検出した溝である。SD 2と合流す
る。撹乱に切られるため平面形状は不明確で、さらに
北側と南側へ延びてSD24を取り込む可能性がある。
深部の主軸方位はN-13°-Wで、長さ約3.35m、最
深部で0.85m、断面形はテラス付き逆台形である。

埋土は5層に分層でき、10YR2/1 黒色粘土～微細
砂、2.5Y2/1 黑色微細砂～細砂、7.5YR1.7/1 黑色粘
土～微細砂の3層を上層、7.5YR3/1 黑褐色細砂で小
礫含むを埋土、10YR3/1 黑褐色微細砂～粘土を最下
層として遺物の取上げを行った。

遺物は弥生土器甕・壺・高杯・鉢・器台・製塙土器
が出土している(157～169)。出土遺物の年代から、
弥生時代後期後葉と考えられる。

SD24(図5・14)

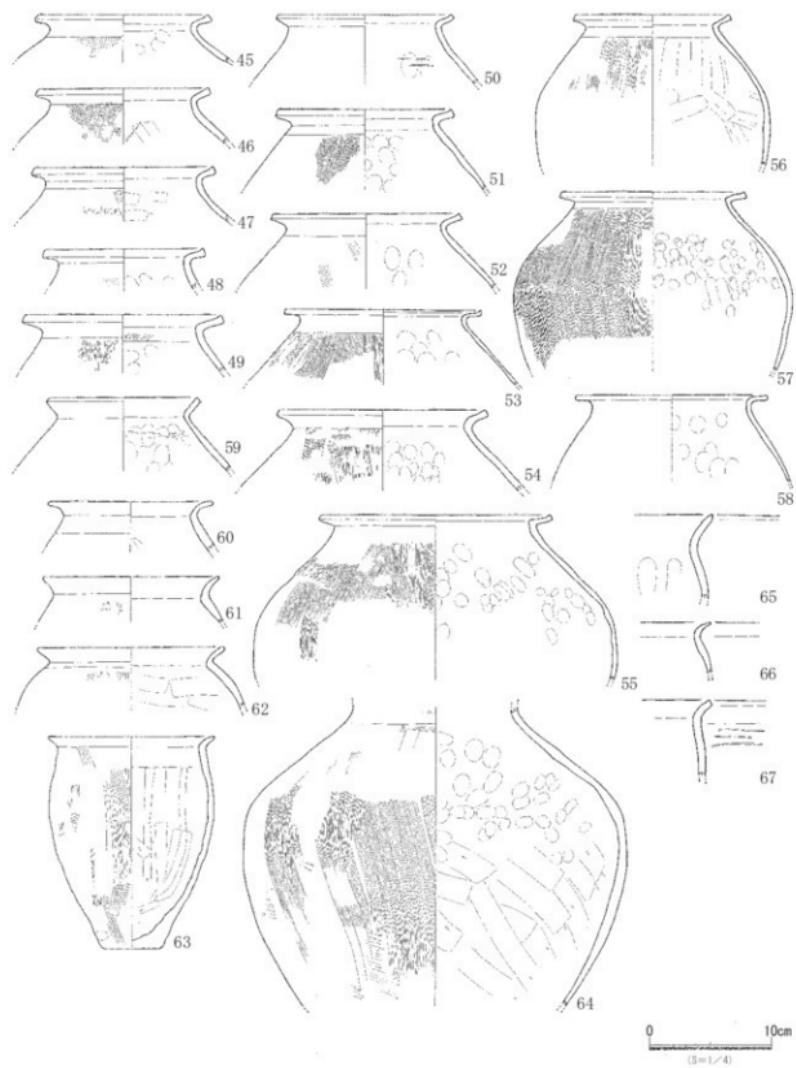
SD20の南側で検出した遺構で、撹乱によって平面
形状が不明確であるが、SD20と同一の溝と考えられ
る。

遺物は弥生土器甕(175)が出土している。出土遺
物の年代から弥生時代後期後葉と考えられる。

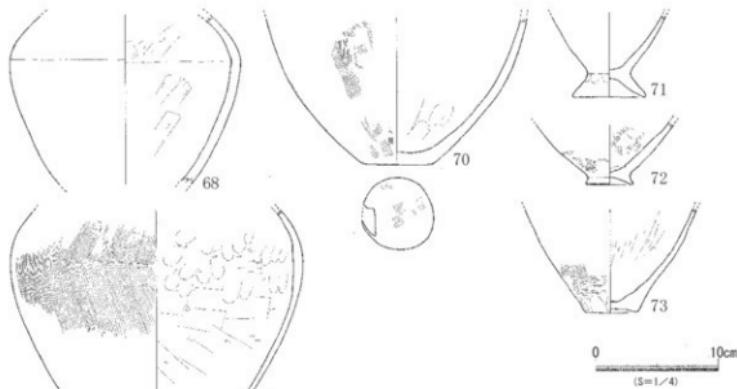
SD27(図5・14)

第1調査区の北側で検出した溝である。西から北
に僅かに屈曲しながら調査区外に延びる。撹乱によ
りSD20上層との切り合いは不明である。主軸方位は
N-52°-Eで、長さ約3.3mを検出した。幅は約0.9m、
深さ約0.27m、断面形は浅い皿状を呈する。

埋土は4層に分層でき、上層が10YR2/1 黑色粘
土、中層が7.5YR2/1 黑色微細砂混じり粘土、下層が
7.5YR3/1 黑褐色細砂混じり粘土、10YR2/1 黑色シ



第8図 SD 2 最下層出土土器①



第9図 SD 2 最下層出土土器②

ルト混じり粘土である。

遺物は弥生土器底部（177）と粘土塊が出土している。

SD28（図5）

調査区北西隅で検出した遺構SD26に続く。遺構の大半が擾乱によって乱されており、平面形状など、不明な点が多い。

遺物は出土していない。

SD30（図17・14）

第1調査区の北西隅で検出した溝である。西から北に掘削されており、調査区外に延びる。主軸方位はN-36°-Eで、長さ約5.5mを検出し、幅約0.6m、深さ約0.08m、断面形は浅い皿状である。

埋土は単層で、10YR2/2 黒褐色粘土混じり細砂である。

遺物は弥生土器底（176）が出土している。

SD 8（図17）

第1調査区の中央で検出した東西方向の小型の溝である。主軸方位はN-83°-Eで、長さ約1.06m、幅約0.23mを検出した。深さ約0.05mを測り、断面形は浅い皿状を呈する。

埋土は単層で、10YR2/1 黒色シルト混じり粘土である。

遺物は出土していないが、埋土から弥生時代と推定できる。

古墳時代

SD 1（図18）

第1調査区の北側で検出した溝で、東西にやや蛇行して調査区外に延びる。主軸方位はN-77°-Wである。長さ約19.5mを検出した。南肩は擾乱に切られしており、東端でかろうじて底部の立ち上がりらしき形状が確認できた。幅約0.8m、深さ約0.34m、断面形はテラス付き方形である。

埋土は4層に分層でき、上層が10YR2/1 黒色粘土で径2~4cmの地山ブロックをブロック状に含む、7.5YR3/2 黒褐色シルト～粘土で径1~2cmの地山ブロック土を斑状に含む。中層が7.5YR4/1 黒褐色粘土で径1~3cmの地山ブロック土を斑状に含む。下層が10YR3/1 黒褐色粘土で、黒色粘土と径1~2cmの地山ブロック土を斑状に含む。

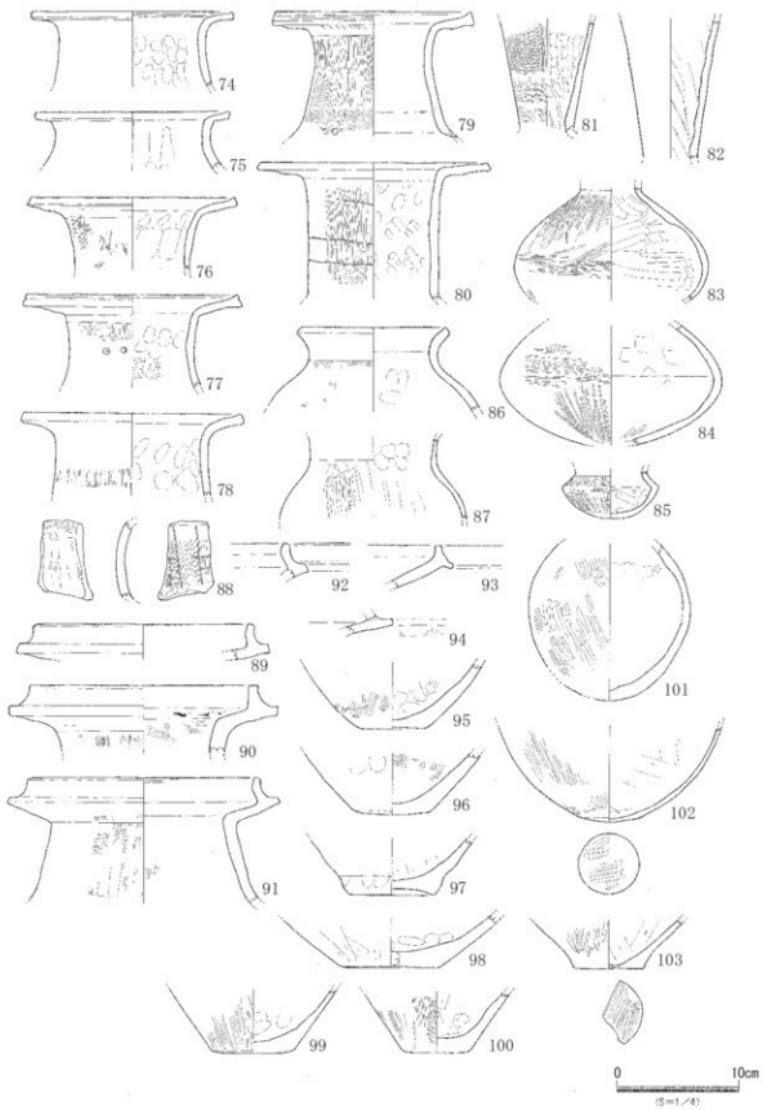
遺物は須恵器片と弥生土器片が出土している。出土遺物から、古墳時代後期と推定できる。

SD 3（図18）

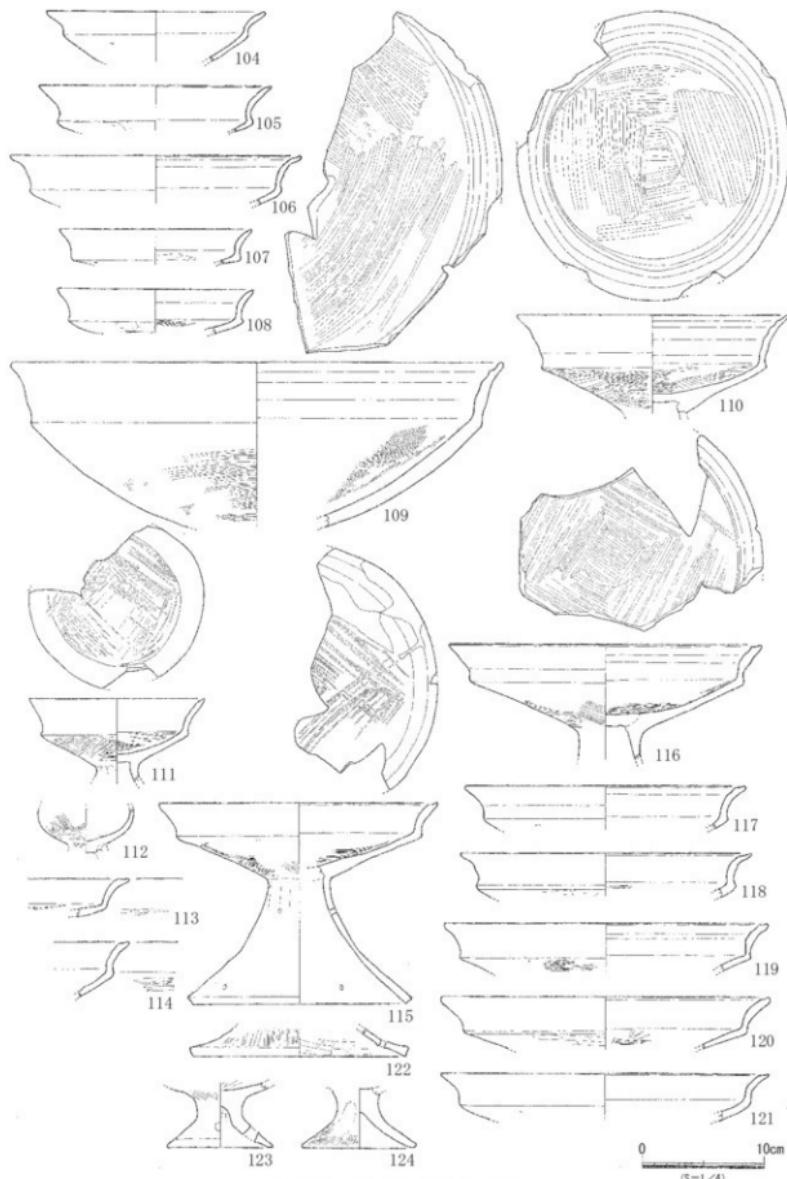
第1調査区の北側で検出した溝である。南北方向に調査区外へと延びる。主軸方位はN-3°-Eで、長さ約2.0mを検出した。幅約0.8m、深さ約0.4m、断面形はテラス付き椀状である。

埋土は4層に分層でき、上層が7.5YR3/3 暗褐色シルト～粘土に7.5YR3/1 黒褐色微細砂を含む、下層が10YR3/1 黑褐色粘土に10YR5/6 黄褐色粘土を含む、7.5YR3/2 黑褐色細砂混じり粘土、10YR3/1 黑褐色粘土である。

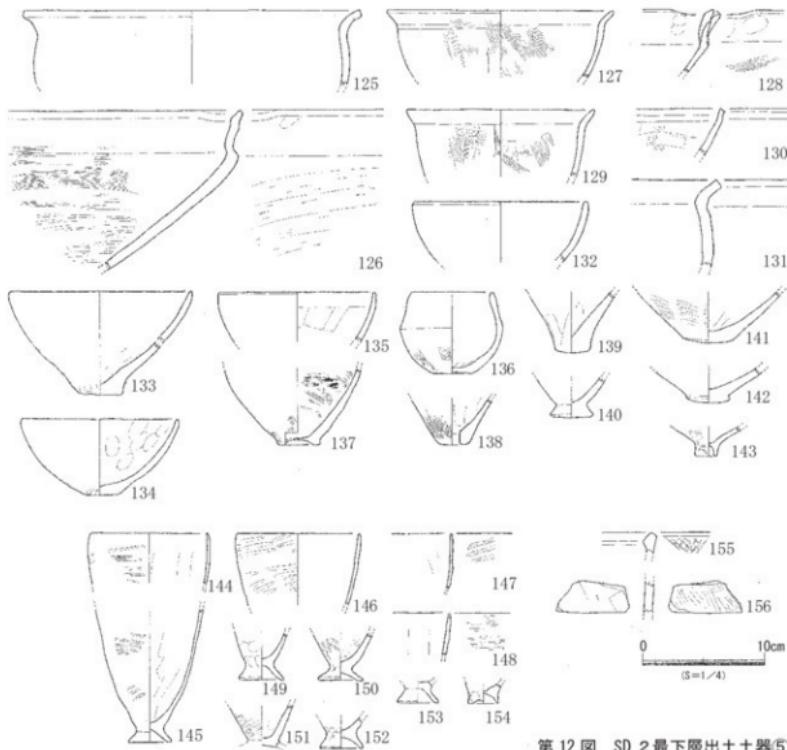
遺物は出土していないが、埋土から古墳時代と推定



第10図 SD 2 最下層出土土器③



第11図 SD 2最下層出土土器④



第12図 SD 2最下層出土土器⑤

できる。

SD29 (図18)

第1調査区の南西側で検出した溝である。南西から北東にやや蛇行しながら延び、搅乱に切られる。主軸方位はN-22°-Eで、長さ約12.0m、幅約0.48mを検出した。深さは0.1mを測り、断面形は浅い皿状を呈する。

埋土は単層で、10YR2/2 黒褐色シルト～粘土である。

遺物は弥生土器片と土師器片が出土している。

SD 5 (図19)

第1調査区の北側で検出した東西方向の溝である。主軸方位はN-68°-Eで、長さ約3.48m、幅約0.3mを検出した。深さ約0.12mを測る。断面形は方形である。

埋土は単層で、10YR2/1 黒色細砂混じり粘土に地

山ブロック土を含む。

遺物は出土していないが、埋土から古墳時代と推定できる。

SK 9 (図19)

第1調査区の中央で検出した土坑である。平面形は梢円～方形で、長軸約1.62m、短軸約0.82m、深さ約0.08mを測り、断面形は浅い皿状を呈する。

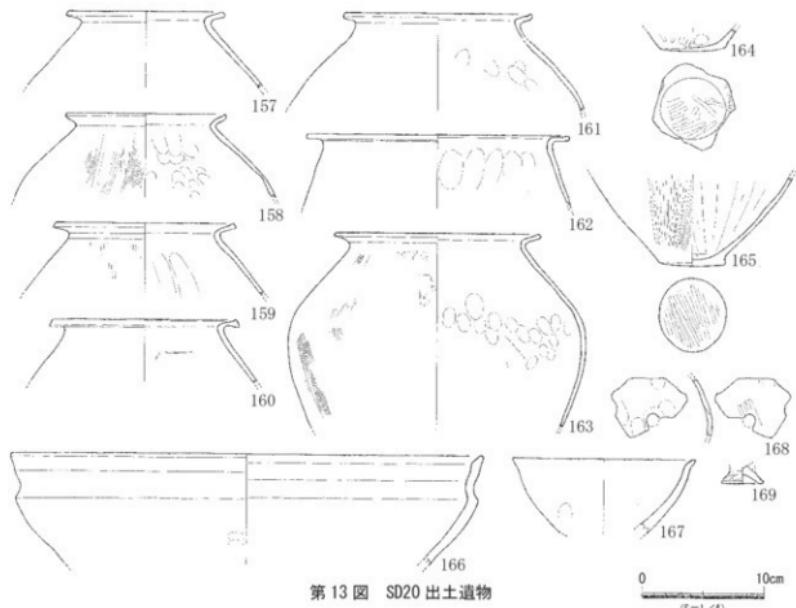
埋土は単層で、10YR4/3 にぶい黄褐色粘土に10YR2/1 黒色シルト混じり粘土ブロックを含む。

遺物は弥生土器片と土師器片が出土している。

SK 4 (図19)

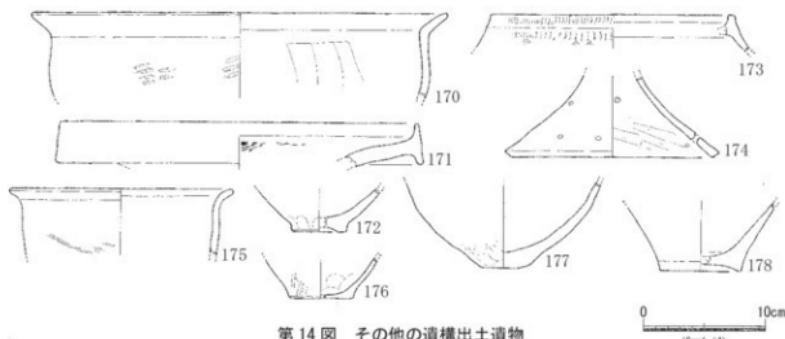
第1調査区の北側で検出した土坑で、調査区外に延びるため、全体の形状は不明である。長軸約1.0m、短軸約0.4mを検出し、深さ0.4mを測る。断面形は方形である。

埋土は上層が10YR3/1 黑褐色粘土で地山ブロック



第13図 SD20出土遺物

0 10cm
(S=1/4)



第14図 その他の遺構出土遺物

0 10cm
(S=1/4)

土を含む、下層が7.5YR2/1黒色粘土で、径1~2cmの地山ブロック土を斑状に含む。

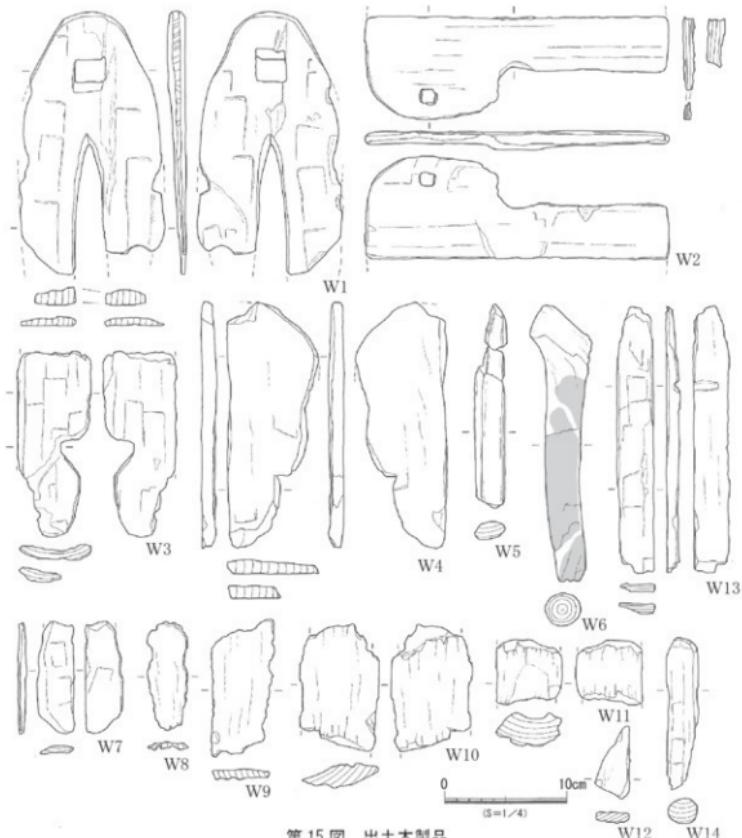
遺物は出土していないが、埋土から古墳時代と推定できる。

SK 6 (図19)

第1調査区の北側で検出した土坑で、調査区外に延びるため全体の形状は不明である。長軸約3.3m、短軸約1.0mを検出し、深さ約0.14mを測る。断面形は浅い皿状を呈する。

埋土は単層で、10YR3/1黒褐色粘土に10YR4/6褐色シルト～粘土ブロックを含む。

遺物は粘土塊が出土した。埋土から古墳時代と推定



第15図 出土木製品

できる。

SK 7 (図19)

第1調査区の中央で検出した平面形が不整形な土坑である。主軸方位N-57°-Eで、長軸約6.54m、短軸約1.64mを検出し、深さ約0.21mを測る。断面形は浅い皿状である。

埋土は単層で、7.5Y3/1 黒褐色粘土に 10YR4/4 褐色粘土ブロックを含む。

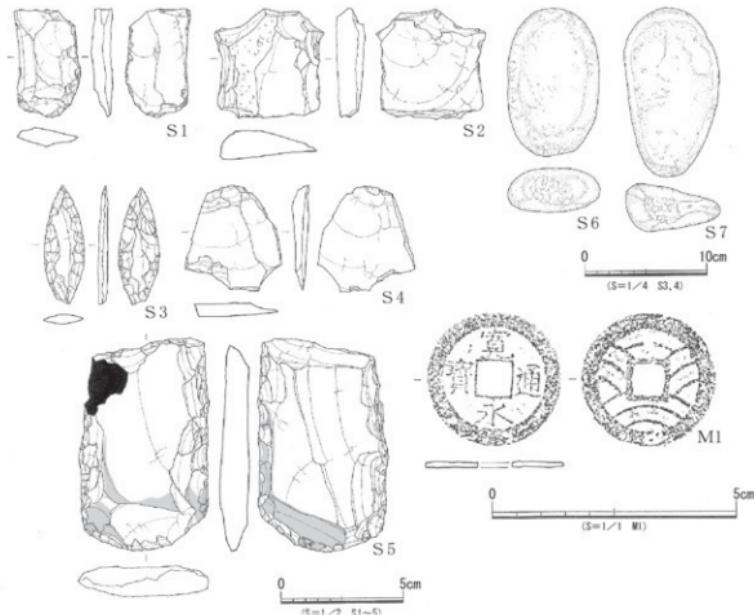
遺物は出土していないが、埋土から古墳時代と推定できる。

SK21 (図19)

第1調査区の中央北寄りで検出した土坑である。平面形は楕円形で、長軸約1.13m、短軸約0.4mを検出し、深さ約0.06mを測る。断面形は浅い皿状を呈する。

埋土は単層で、2.5Y3/2 黒褐色粘土混じりシルトである。

遺物は出土していないが、埋土から古墳時代と推定できる。



第16図 出土石器・金属製品

SD19(図20)

第1調査区の西側で検出した南北方向の溝で、調査区外に延びる。長さ約2.75m、幅約0.35mを検出した。深さ約0.07mを測り、断面形は浅い皿状を呈する。鋤溝と考えられる。

埋土は単層で、2.5Y5/2 暗灰黄色極細砂混じりシルトである。

中世

SD17(図20)

第1調査区の西側で検出した南北方向の溝で、調査区外に延びる。主軸方位はN-14°-Eで、長さ約0.67m、幅約0.4mを検出した。深さ約0.07mを測り、断面形は浅い皿状を呈する。鋤溝と考えられる。

埋土は単層で、2.5Y5/2 暗灰黄色極細砂混じりシルトである。

遺物は出土していないが、埋土から中世と推定できる。

SD18(図20)

第1調査区の西側で検出した南北方向の溝で、調査区外に延びる。主軸方位はN-9°-Eで、長さ約4.7m、幅0.5mを検出した。深さ約0.09mを測り、断面形は浅い皿状を呈する。鋤溝と考えられる。

埋土は単層で、2.5Y5/2 暗灰黄色極細砂混じりシルトである。

遺物は出土していないが、埋土から中世と推定できる。

時期不明の遺構

SD22(図21)

第1調査区の中央北寄りで検出した溝である。南北方向やや西寄りに屈曲して攪乱に切られる。主軸方位はN-12°-W→N-20°-Eである。長さ約1.24m、幅約0.17mを検出した。深さ約0.11mを測り、断面形は逆台形を呈する。

埋土は単層で、2.5Y3/1 黒褐色シルト混じり粘土に径0.5cm程度の地山ブロックを斑状に含む。

遺物は出土していない。



SD25 (図 21)

第1調査区の中央北寄りで検出した溝である。西から北に延び、擾乱に切られる。擾乱の対岸では検出できなかった。主軸方位はN-40°-Eで、長さ約4.4m、幅約0.87mを検出した。深さ約0.2mで、断面形は逆台形を呈する。

埋土は上層が10YR1.7/1 黒色粘土、下層が10YR2/1 黒色細砂である。

遺物は出土していない。

SK31 (図 21)

第1調査区の南側で検出した土坑である。平面形は橢円～方形で、長軸約0.9m、短軸約0.38m、深さ約0.17mを測る。断面形は楕状を呈する。

埋土は上層が7.5YR2/2 黒褐色細砂混じりシルト、下層が7.5YR3/4 暗褐色粘土混じりシルトである。

遺物は出土していない。

SD50 (図 21)

第2調査区の北東隅で検出した北西方向から南東方向の溝で、調査区外に延びる。主軸方位はN-75°-Wで、長さ約1.7m、幅約0.24mを検出した。深さ約0.18m、断面形はU字形である。

埋土は上層が10YR3/1 黒褐色細砂混じりシルト～粘土、下層が10YR2/2 黒褐色細砂混じりシルト～粘土である。

遺物は出土していない。

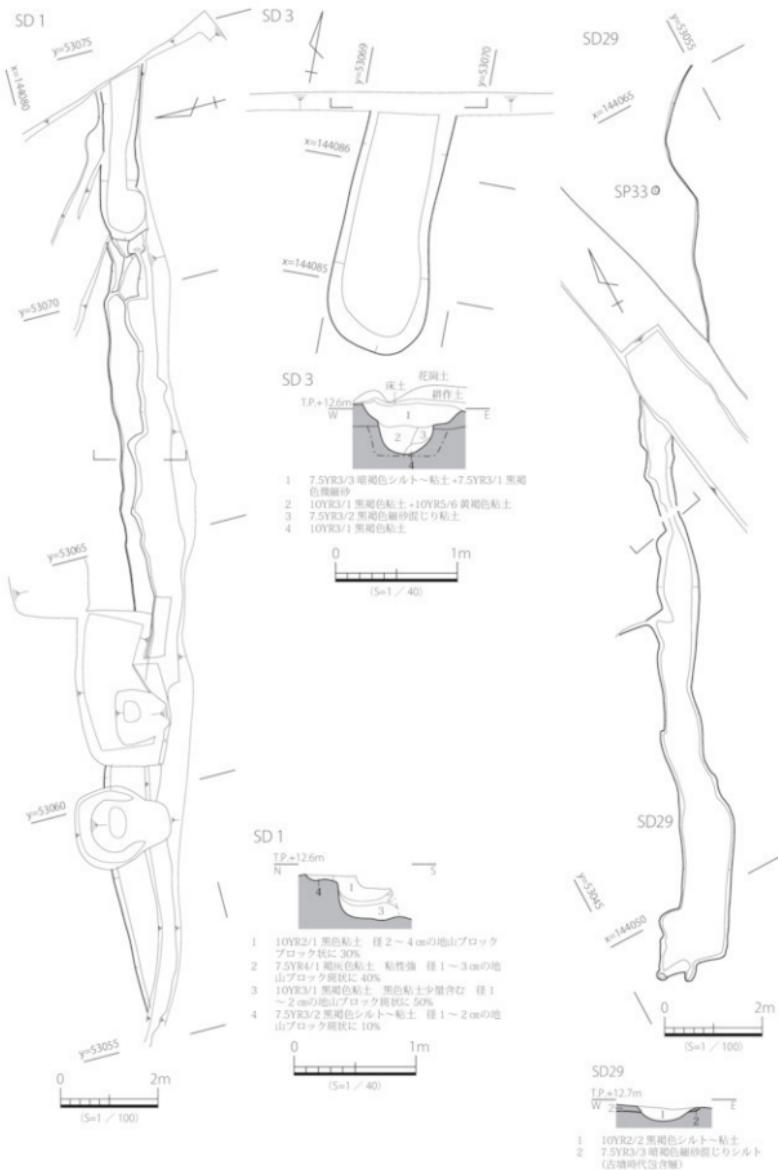
SK51 (図 21)

第2調査区の北東隅で検出した土坑である。擾乱に切られ、調査区外に展開するため平面形は不明である。長軸約0.78m、短軸約0.4mを検出し、深さ約0.27mを測る。断面形は逆台形である。

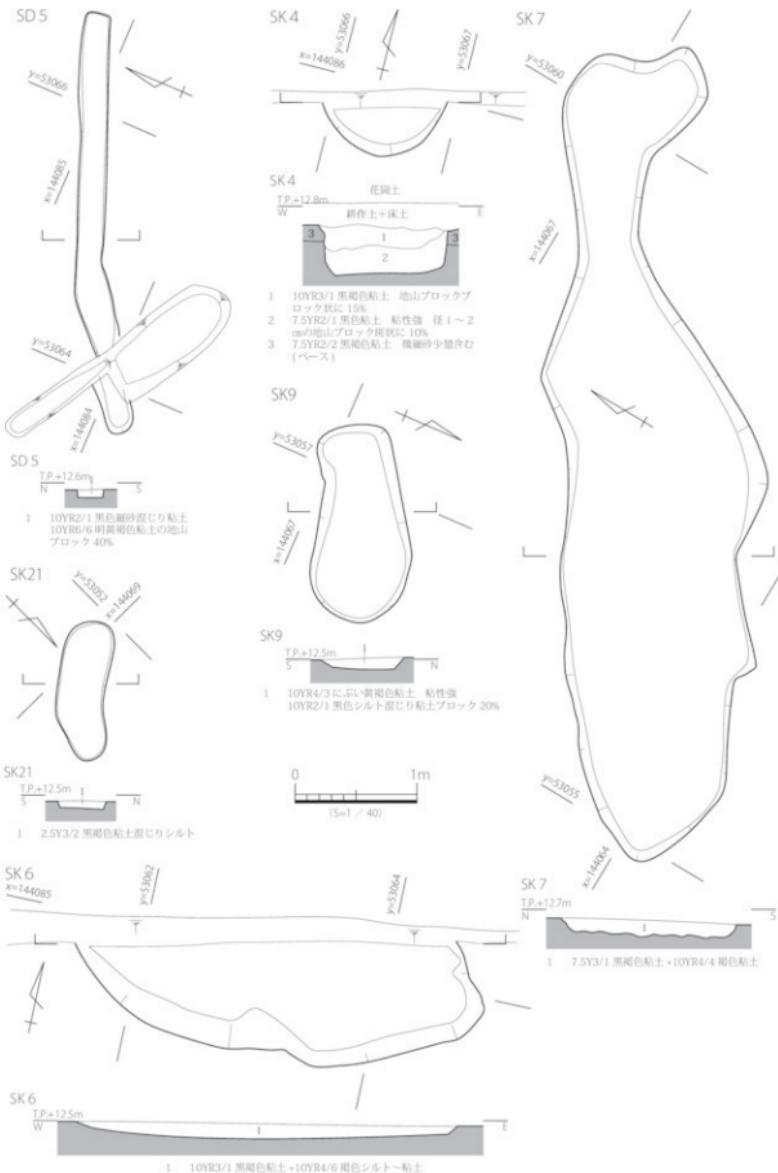
埋土は上層が10YR1.7/1 黒色微細砂混じり粘土、下層が10YR3/1 黑褐色細砂混じり粘土である。

遺物は出土していない。

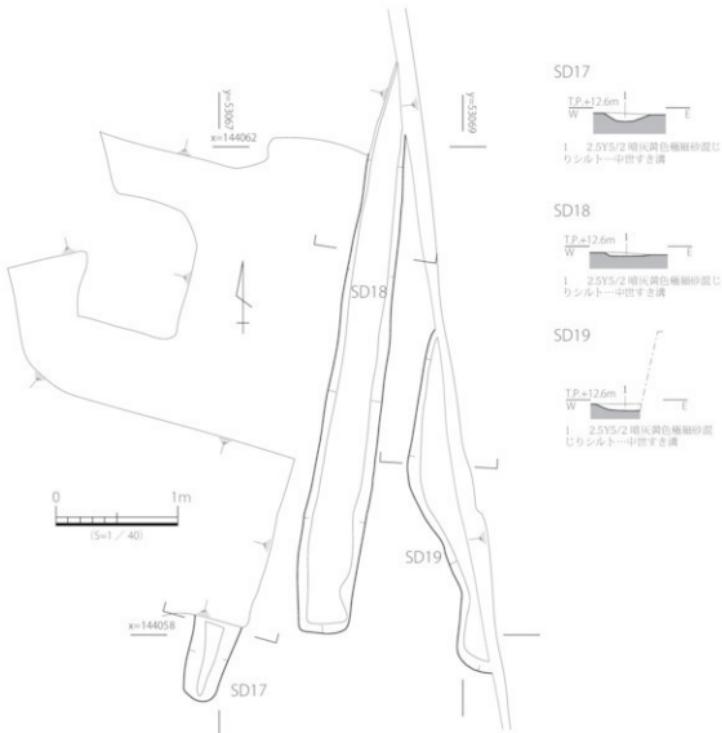
第17図 SD30・8平・断面図



第18図 SD 1・3・29 平・断面図



第 19 図 SD 5・SK 4・6・7・9・21 平・断面図



第20図 SD17・18・19 平・断面図

SP 11（図22）

第1調査区の中央で検出したピットである。平面形は梢円形で、長軸約0.17m、短軸約0.13m、深さ約0.05mを測る。断面形はU字形を呈する。

埋土は単層で、10YR3/1 黒褐色シルト混じり粘土で径1～2cm程度の地山ブロック土を含む。

遺物は出土していない。

SP 12（図22）

第1調査区の中央で検出したピットである。平面形は梢円形で、長軸約0.24m、短軸約0.15m、深さ約0.04mを測る。断面形は不整形である。

埋土は単層で10YR3/1 黒褐色シルト混じり粘土で、径1～2cm程度の地山ブロック土を含む。

遺物は出土していない。

SP 13（図22）

第1調査区の中央で検出したピットである。平面形は円形で、長軸約0.12m、短軸約0.12m、深さ約0.05mを測る。断面形はU字形を呈する。

埋土は単層で10YR3/1 黒褐色シルト混じり粘土で径1～2cm程度の地山ブロック土を含む。

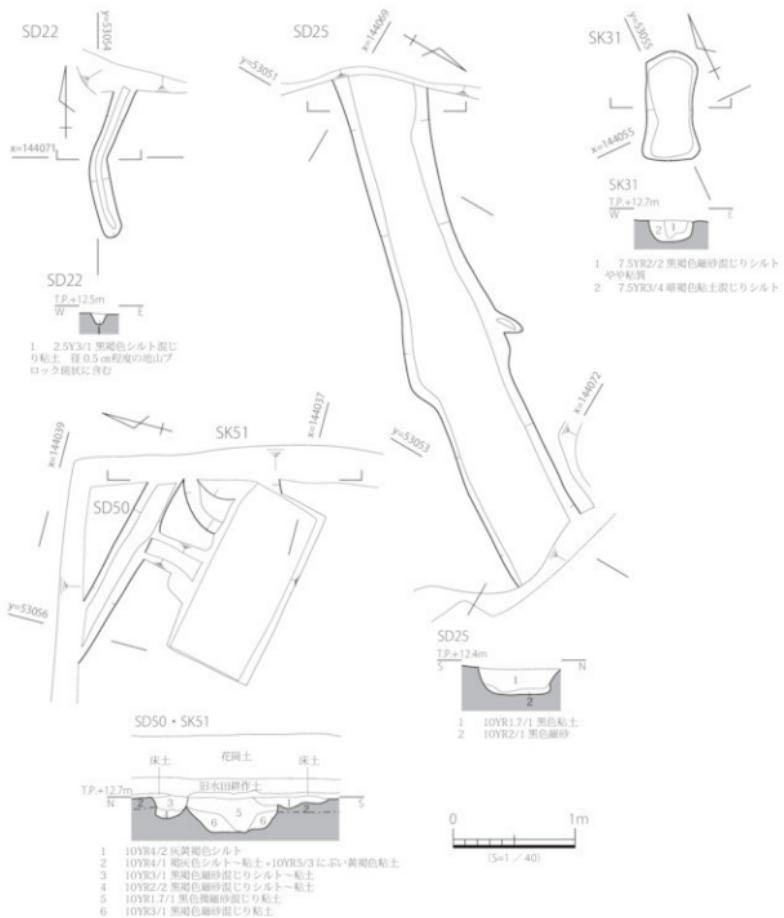
遺物は出土していない。

SP 14（図22）

第1調査区の中央で検出したピットである。平面形は円形で、長軸約0.11m、短軸約0.1m、深さ約0.06mを測る。断面形はU字形を呈する。

埋土は単層で、10YR3/1 黒褐色シルト混じり粘土で、径1～2cm程度の地山ブロック土を含む。

遺物は出土していない。



第21図 SD22・25・50・SK51・31 平・断面図

SP 15 (☒ 22)

第1調査区の中央で検出したピットである。平面形は円形で、長軸約0.21m、短軸約0.2m、深さ約0.23mを測る。断面形は筒型を呈する。

埋土は単層で、10YR3/1 黒褐色シルト混じり粘土に径1～2cm程度の地山ブロック土を含む。

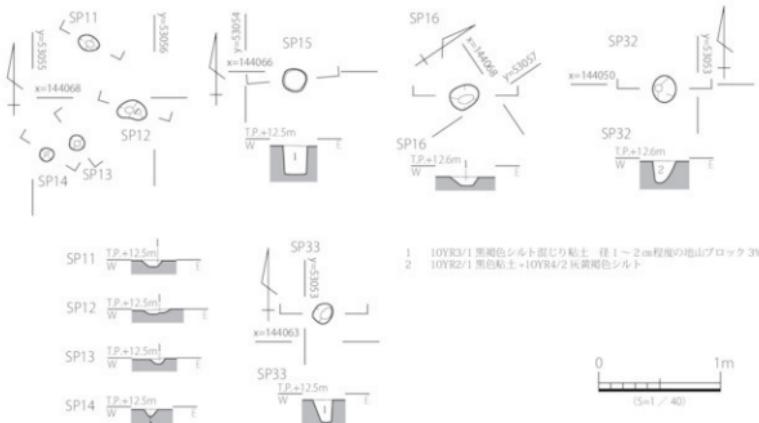
遺物は出土していない。

SP 16 (☒ 22)

第1調査区の中央で検出したビットである。平面形は梢円形で、長軸約0.24m、短軸約0.19m、深さ約0.08mを測る。断面形は不整形である。

埋土は単層で、10YR3/1 黒褐色シルト混じり粘土に径1~2cm程度の地山ブロック土を含む。

遺物は出土していない。



第22図 SP11・12・13・14・15・16・32・33平・断面図

SP 33 (図22)

第1調査区の中央で検出したピットである。平面形は円形で、長軸約0.17m、短軸約0.16m、深さ約0.18mを測る。断面形はU字形を呈する。

埋土は単層で、10YR3/1 黒褐色シルト混じり粘土に径1~2cm程度の地山ブロック土を含む。

遺物は出土していない。

SP 32 (図22)

第1調査区の南側で検出したピットである。平面形は円形で、長軸約0.22m、短軸約0.2m、深さ約0.22mを測る。断面形はU字形を呈する。

埋土は単層で10YR2/1 黒色粘土に 10YR4/2 灰黄褐色シルトブロックを含む。

遺物は出土していない。

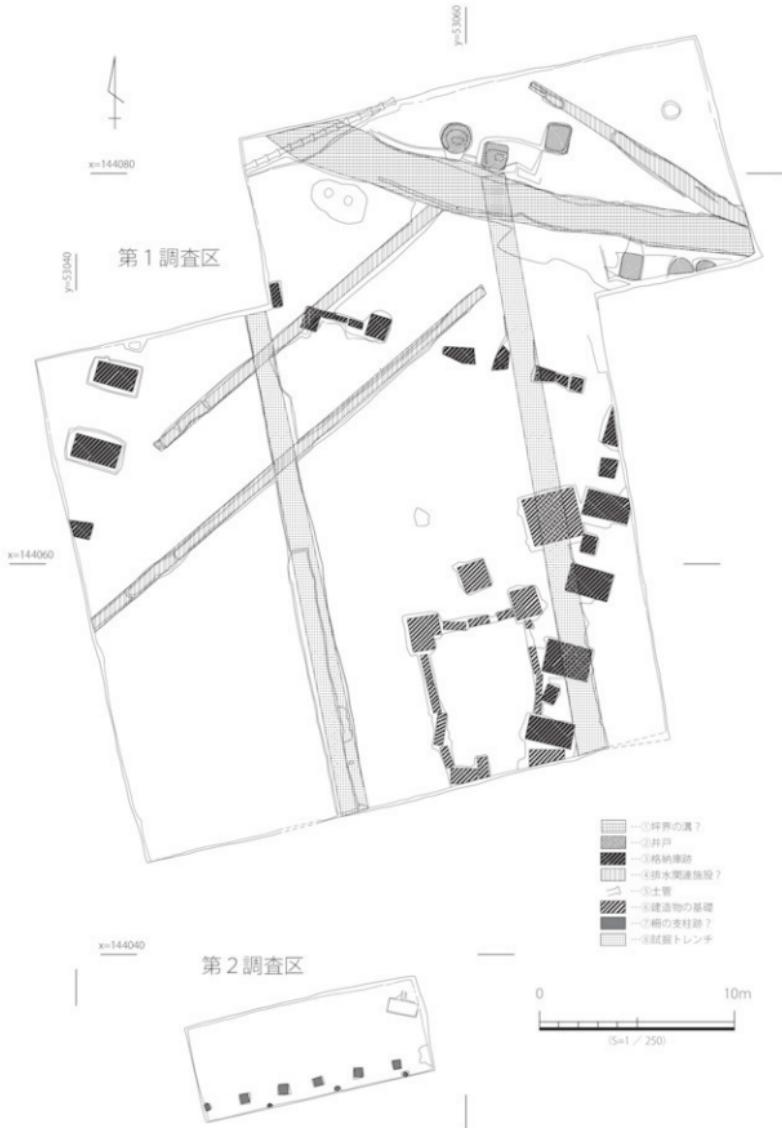
搅乱 (図23)

第1調査区全体で、多数の搅乱を検出した。調査区が位置している場所は、亀の町公園として整備されており、これらの搅乱は亀の町公園が整備される以前の構造物のものと考えられた。亀の町公園の場所には、昭和26年4月に建設された高松空港無線標識所があり、無線標識所の廃止後、香川県土地開発公社の所有となった。平成7年に香川県土地開発公社と高松市による土地交換によって、高松市の所有となり、公園として整備されたことが判明した。公園の周辺は住宅街となりつつあるが、周囲にはまだ水田が広がっており、かつて大規模な構造物等が存在した痕跡は確認できない。

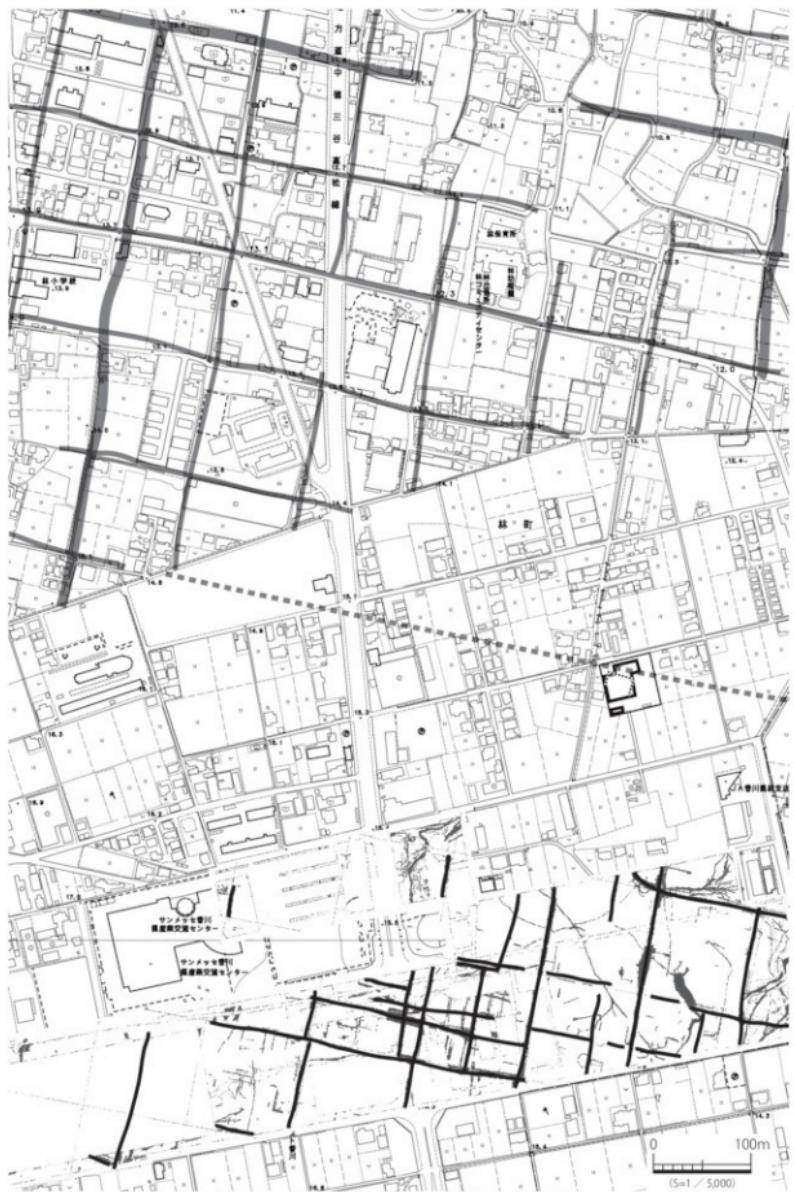
このため、これらの大規模な搅乱が旧日本軍の施設であった可能性が考えられた。まず搅乱を分類すると、①北側の溝状の搅乱、②丸～方形搅乱、③コンクリート塊、④調査区の斜めに走る溝状の搅乱、⑤土管埋設、⑥コンクリートの台座とコンクリートガラ、⑦現在の地割と平行する搅乱、⑧南北に延びる溝状の搅乱、となる。

①北側の溝状の搅乱

調査当初には頼塙の可能性が想定できたが、湧水が認められること、⑤の土管が溝の上面に設置されていることから、飛行場整備時までは導水関連の溝として機能しており、土管埋設までの間に埋戻されたと考えられる。この箇所が旧条里の坪界に位置するため（第



第23図 摂乱検出状況



第24図 古代条里復元図と格納庫跡の主軸関係

24図)、坪界溝の可能性が高い。

②丸～方形搅乱

掘削段階で一定の湧水が確認できたため、素掘りの井戸と想定できる。

③コンクリート塊

戦時中の軍用飛行場だった頃の格納庫の跡と考えられる。コンクリート塊の内側に柱の痕跡が確認できないことから、内部に大規模な空間が必要な施設であったと想定できる。コンクリート塊はコンマ0.45の重機を用いても、撤去することができないほどの頑丈な基礎で、上屋の構造物も強度をもった構造物であった可能性が高い。

調査を進めるうちに、「滑走路の北側に大きな格納庫が元の条里に沿って建っていた」という、当時を知る人の証言を得ることができた。そこで第24図で古代条里地割の復元図と県教委の発掘調査で検出した条里跡を照らした。格納庫が軍用飛行場に沿ってではなく、以前の地割の方向に沿うのは、当時はまだこの周辺の地割を変更していなかったためと推測できる。

④調査区の斜めに走る溝状の搅乱

排水関連施設と想定できる。一部③に切られているため、③の設置以前の施設と考えられる。

⑤土管施設

土管には調査時にも清水がこんこんと流れしており、下流域で水を使用している可能性が考えられたため、発掘調査中に撤去することができなかつた。建設工事開始までは撤去する必要があったため、事業課が周辺への聞き込み等を実施したが、土管の存在について有力な証言を得ることができなかつた。このため、継続して土管の埋設経緯について調査を行っていると、戦時中に桜井の出水から土管を1mの深さに埋設する作業を行っていた人の証言を得ることができた。土管は飲料用の目的で、林町周辺に埋設されたとのことで、今回の調査で確認した土管もその当時のもの可能性が高い。

⑥コンクリートの台座とコンクリートガラ

建造物の基礎と捨てコンクリートと考えられる。現在の地割に沿って造られている。昭和26年4月に建設された高松航空無線標識所が建っていた位置と合致するため、この建物である可能性が高い。

⑦現在の地割と平行する搅乱

柵の支柱跡と考えられる。現在の地割に並行するため、戦後の建物と考えられる。⑥に付随する構造物と

考えられる。

⑧南北に延びる溝状の搅乱

試掘トレンチ。西側は香川県が平成2年に実施したもので、東側は高松市が平成25年に実施したものである。

第4章　まとめ

第1節　遺跡と遺構

本遺跡は、東側は春日川の支流である古川と西侧は香東川の旧河道があった、比較的大きな微高地から緩やかに東へと傾斜する地形上に位置している。現在インテリジェントパーク等がある微高地上には、弥生時代前期から中世にかけて集落が営まれており、本遺跡はこれらの集落の縁辺部分に位置していると考えられる。

今回の調査で検出した遺構は、溝や土坑といった遺構のみで、建物等は見つかっていない。このことは調査区が位置している箇所の地形が、微高地上に位置せず、緩やかな傾斜地にあるため、集落域として選択されなかったためと考えられる。

今回の調査では、遺構の変遷を7時期に区分することができる（第25図）。①弥生時代前期、②弥生時代後期、③古墳時代後期、④中世、⑤近代（戦前）まで、⑥現代（戦中）、⑦現代（戦後）である。

①弥生時代前期…流路が最終埋没する過程で少量の前期弥生土器を包含する。流路が埋まり、土地が安定したことで、土地利用が開始された。

②弥生時代後期…地形に沿った南北方向と東西方向の溝が確認できた。このうちSD 2では、流水の痕跡が確認できることから、水路として機能したのち人為的に埋戻され、その際に多量の土器や木器が同時に投棄されたと考えられる。

③古墳時代後期…弥生時代の遺構面の上面に包含層が確認でき、包含層上面から古墳時代後期の遺構が確認できた。弥生時代後期から古墳時代後期までの遺構は確認できなかった。

④中世…鉋溝を確認。このころに耕作地として利用か。

⑤近代（戦前まで）…坪界溝を確認した。今回の調査では条里地割の施工時期を示す資料が確認できないが、弘福寺領讃岐国山田郡田園の資料から、天平7年（735）ごろから順次施工されたと考えられる。戦前までは溝と地割が踏襲され、水路として利用されていたが、戦時中に飛行場建設のため埋められた。基幹となる水路を失ったことが、戦後に空港北側の地割が旧地割へと戻されなかつた理由となったと考えられる。

⑥現代（戦中）…戦闘機の格納庫と導水施設（土管）。戦時に建設及び敷設。格納庫は北側に基礎のコンク

リートが確認できることから、南側に出入りがあると推定できる。昭和20年11月9日に各所から集められた武器弾薬を詰めて爆破された建物の可能性が高い。土管は桜井の出水からどのように敷設されたかは、当時の資料が残っていないため不明である。

⑦現代（戦後）…無線標識所。戦後に地割が変更されたのちに設置されたと考えられる。

第2節　遺物について

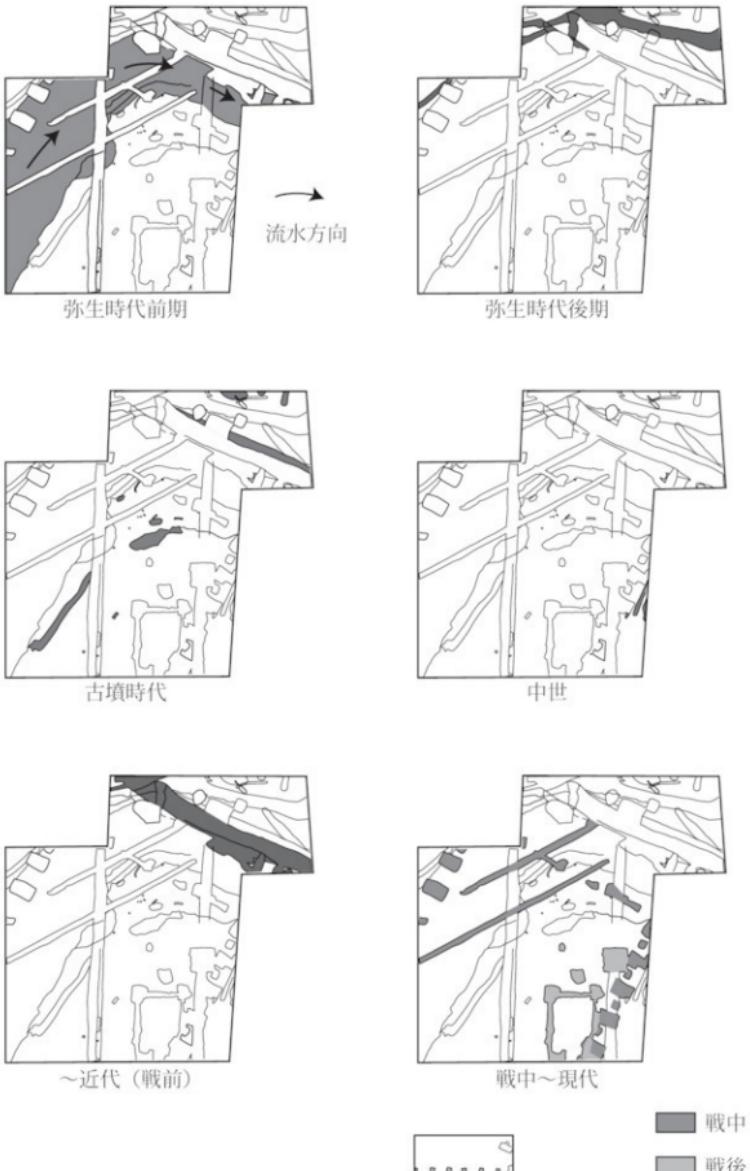
今回の調査で出土した遺物の大半は、SD 2とSD 2に付属する遺構から出土したものである。それ以外の遺構から出土している遺物は非常に少ない。

SD 2からは弥生土器壺、甕、鉢、高杯、製塙土器、木器などが出土している。上層の埋土出土のものと、最下層出土のものともに、弥生時代後期中葉～後葉に帰属し、明確な時期差は認められない。

このうち高杯では、分割ヘラミガキを施した精製高杯と粗製の高杯の2種類が確認でき、精製高杯には大型のものが多い傾向がある。また一部に他地域からの搬入品と考えられる土器があり（173）、胎土や土器の調整方法に違いが認められる。また角閃石を多く含む下川津B類土器も一定量確認できる。

このほか、焼成破裂土器（図版18-179）も出土しており、調査区周辺で土器作りが行われていた可能性が考えられる。

今回の調査で出土した土器には完形品がなく、破損しているものが大多数を占める。また同一個体でも離れた箇所からの接合事例が認められることから、溝の埋戻し時に周辺の集落域で破損品を集め、まとめて投棄したものと考えられる。



第25図 遺構変遷図

第1表 土器觀察表

規文番号	遺構/位局名	種類	部材	法量(cm)			調整			色調		歯士	地成	現存率	備考
				口径(復元) (復元)	底径(復元) (復元)	高さ(復元) (存高)	外側	内面	外面	内面	外側	内面			
1. SD2 球土器	弥生器	便		[14.0]	—	[4.0]	ヨコナリ、ハラナリ、 筒型	ナリ、ハラナリ、 指顎正直	10YR8/2 灰白	2.5Y7/2 黄	1mm以下の右 美、長石、角閃 石を含む	良	反転		
2. SD2 球土器	弥生器	便		[14.2]	—	[4.4]	ヨコナリ、リリナリ 筒型	ナリ、ハラナリ、 指顎正直	2.5Y4/1 黄	2.5Y4/1 黄	3mm以下の右 美、長石、角閃 石を含む	良	反転		
3. SD2 球土器	弥生器	便		[14.6]	—	[5.45]	ヨコナリ、ハラ ナリ	ヨコナリ、 指顎正直、ナリ	2.5Y6/4 にぶい黄	2.5Y6/3 にぶい黄	1mm以下の右 美、長石、赤色 斑、金雲母、 角閃石を含む	良	反転	外側 付着	球 化
4. SD2 球土器	弥生器	便		17.6	—	[5.8]	ヨコナリ、ハラ ナリ	ヨコナリ、 指顎正直、ナリ	2.5Y5/4 にぶい黄	2.5Y5/4 にぶい黄	3mm以下の右 美、長石、角閃 石を含む	良	反転		
5. SD2 球土器	弥生器	便		15.6	—	[6.2]	ヨコナリ、ナリ →リリナリ	ヨコナリ、 指顎正直	7.5YR2/1 黒	7.5YR4/4 黒	5mm以下の右 美、長石、赤色 斑、金雲母、 角閃石を含む	良	反転		
6. SD2 球土器	弥生器	便		[16.6]	—	[6.85]	ヨコナリ、ハラ ナリ	ヨコナリ、 指顎正直	10YR6/2 灰黄	10YR6/2 灰黄	2mm以下の右 美、長石、角閃 石を含む	良	反転		
7. SD2 球土器	弥生器	便		[14.8]	—	[3.9]	ヨコナリ、リリナリ 筒型	ヨコナリ、 指顎正直	10YR5/4 にぶい黄	10YR5/4 にぶい黄	2mm以下の右 美、長石、角閃 石を含む	良	反転	口縁端部 付着	接合部 あり
8. SD2 球土器	弥生器	便		[14.8]	—	[5.7]	ヨコナリ、ハラ ナリ	ヨコナリ、 指顎正直	2.5Y7/2 灰黄	2.5Y6/2 灰黄	1mm以下の右 美、長石、角閃 石を含む	良	反転	外側 一部 煤化	
9. SD2 球土器	弥生器	便		17.0	—	[8.2]	ヨコナリ、ハラ ナリ	ヨコナリ、 筒型	2.5Y7/2 灰黄	2.5Y7/2 灰白	3mm以下の右 美、長石、赤色 斑、金雲母、 角閃石を含む	良	反転	外側 付着	球 化
10. SD2 球土器	弥生器	便		[14.6]	—	[13.3]	ヨコナリ、ハラ ナリ	ヨコナリ、ナリ →指顎正直	10YR6/4 灰黄	10YR6/2 灰	5mm以下の右 美、長石、角閃 石を含む	良	反転	外側 付着	球 化
11. SD2 球土器	弥生器	便		—	—	[17.2]	フリ、ハラ、ナリ →リリナリ	ヨコナリ、ナリ →指顎正直	10YR5/4 にぶい黄	10YR5/4 にぶい黄	3mm以下の右 美、長石、角閃 石を含む	良	反転	外側 黒 膜	黒 膜
12. SD2 球土器	弥生器	便 or 優	底部	—	[5.8]	[3.6]	—	—	7.5YR3/1 黒	7.5YR5/4 にぶい黄	5mm以下の右 美、赤色斑、 金雲母、角閃石 を含む	良	反転	外側 煤化	
13. SD2 球土器	台付便	底部	—	2.5	[4.2]	板付け、ナリ	板付け、ナリ	10YR8/2 灰白	2.5Y7/2 灰黄	3mm以下の右 美、長石を含む	良	反転	外側 黒 膜	黒 膜	
14. SD2 球土器	弥生器	便	底部	—	[3.2]	[4.9]	ナリ、ハラ	ナリ、ハラ	2.5Y7/6 浅黄	2.5Y7/3 浅黄	4mm以下の右 美、赤色斑を 含む	良	反転	底面 黒 膜	黒 膜
15. SD2 球土器	弥生器	便		[7.4]	—	[1.4]	ヨコナリ	ヨコナリ	2.5Y7/3 浅黄	2.5Y7/3 浅黄	1mm以下の右 美、長石、黒色 斑、金雲母、 角閃石を含む	良	反転		
16. SD2 球土器	弥生器	便		[18.0]	—	[5.5]	ナリ→ヨコナリ ナリ	板ナリ、ヨコナリ →指顎正直	10YR5/3 にぶい黄	10YR5/3 にぶい黄	3mm以下の右 美、長石、角閃 石を含む	良	反転		
17. SD2 球土器	弥生器	便		[16.2]	—	[5.8]	ヨコナリ	ヨコナリ、ナリ →指顎正直	10YR5/3 にぶい黄	10YR5/3 にぶい黄	1mm以下の右 美、長石、角閃 石を含む	良	一部 反転		
18. SD2 球土器	弥生器	便		[16.0]	—	[7.85]	ヨコナリ、ナリ →リリナリ	ヨコナリ、 筒型正直	10YR6/4 にぶい黄	10YR6/3 にぶい黄	2mm以下の右 美、赤色斑、 金雲母、角閃石 を含む	良	反転		
19. SD2 球土器	弥生器	便		15.5	—	[5.6]	ナリ、リリナリ ナリ	ナリ、 指顎正直	2.5Y7/3 灰	2.5Y7/2 灰黄	3mm以下の右 美、長石、角閃 石を含む	良	反転		
20. SD2 球土器	弥生器	便		[16.4]	—	[5.6]	ナリ、ヨコナリ	ヨコナリ、ナリ →ナリ	7.5YR6/4 にぶい黄	7.5YR6/4 にぶい黄	2mm以下の右 美、長石、角閃 石を含む	良	反転		
21. SD2 球土器	弥生器	便		[17.4]	—	[4.3]	ヨコナリ、ナリ	ヨコナリ、ナリ	7.5YR6/4 にぶい黄	7.5YR6/4 にぶい黄	10YR8/2 灰白	良	反転		
22. SD2 球土器	弥生器	便		17.6	—	[5.4]	ナリ	ナリ、 接合部	7.5YR7/4 にぶい黄	7.5YR7/4 にぶい黄	4mm以下の右 美、長石、角閃 石を含む	良	反転		
23. SD2 球土器	弥生器	便		[14.8]	—	[5.3]	ヨコナリ、ナリ ナリ	ヨコナリ、ナリ →ナリ	10YR8/2 灰白	2.5Y6/1 灰	4mm以下の右 美、長石を含む	良	反転		

編文 番号	遺構・ 部位名	種類	器種	(部位)	法量 (cm)		調整		色調		歯土	現成	現存率	備考		
					口径 (復元)	底径 (復元)	高さ [残 存高]	外面	内面	外面						
24	SD2 埋土	陶	土器		21.0	-	[9.55]	3377°、板27°、板27° 浅黄	2.5Y7/3 灰黄	3mm以下の右 美・長石・赤 色粒を含む	3mm以下の右 美・長石・赤 色粒を含む	良	反転			
25	SD2 埋土	陶	土器		-	-	[10.15]	3377°、3377°、板27° 指顎正直・X5° に似い黄 褐色	10YR5/3 10YR5/3 に似い黄 褐色	1mm以下の右 美・長石・金 雲母・角閃石 を含む	1mm以下の右 美・長石・金 雲母・角閃石 を含む	良	反転	外面部：カ メか		
26	SD2 埋土	陶	土器		-	-	[14.6]	3377°、3377°、X5° 指顎正直・X5° に似い黄 褐色	10YR5/3 10YR5/3 に似い黄 褐色	1mm以下の右 美・角閃石を 含む	1mm以下の右 美・角閃石を 含む	良	反転			
27	SD2 埋土	陶	二重口 縁壺	口縁部	-	-	[2.6]	3377°、27°、27° に似い黄 褐色	10YR7/3 10YR7/3 に似い黄 褐色	3mm以下の右 美・長石を含 む	3mm以下の右 美・長石を含 む	良	断片	接合部あ り		
28	SD2 埋土	陶	二重口 縁壺	(26.8)	-	-	[6.8]	27° に似い黄 褐色	10YR7/3 10YR7/3 に似い黄 褐色	3mm以下の右 美・長石を含 む	3mm以下の右 美・長石を含 む	良	反転			
29	SD2 埋土	陶	土器		-	-	[4.4]	3377°、3377°、 3377°、3377° に似い黄 褐色	10YR5/3 10YR5/3 に似い黄 褐色	1mm以下の右 美・長石・雲 母・角閃石 を含む	1mm以下の右 美・長石・雲 母・角閃石 を含む	良	反転			
30	SD2 埋土	陶	土器	30°or要 底部	-	(6.2)	[7.1]	3377°、3377° 指顎正直	10YR7/4 10YR7/4 に似い黄 褐色	1mm以下の右 美・角閃石を 含む	1mm以下の右 美・角閃石を 含む	良	反転			
31	SD2 埋土	陶	土器	杯	杯部	(22.2)	-	[4.1]	3377°、3377°、 3377° 灰黄褐色	10YR5/2 10YR5/2 灰黄褐色	1mm以下の右 美・長石・赤 色粒を含む	1mm以下の右 美・長石・赤 色粒を含む	良	反転		
32	SD2 埋土	陶	土器	高杯	杯部	23.8	-	[5.0]	3377°、3377°、 3377°、3377° →3377° 灰黄褐色	7.5YR5/4 7.5YR5/4 に似い黄 褐色	2mm以下の黄 石・0.5mm以 下の角閃石を 含む	2mm以下の黄 石・0.5mm以 下の角閃石を 含む	良	反転		
33	SD2 埋土	陶	土器	高杯	杯部	-	-	[3.3]	3377°、3377°、 3377° 灰黄褐色	7.5YR6/3 7.5YR6/3 に似い黄 褐色	2mm以下の黄 石・0.5mm以 下の角閃石を 含む	2mm以下の黄 石・0.5mm以 下の角閃石を 含む	良	断片		
34	SD2 埋土	陶	土器	高杯	杯部	-	-	[4.5]	27° 3377°、27° 指顎正直	7.5YR5/6 7.5YR5/6 明褐色	角閃石を含む	角閃石を含む	良	断片		
35	SD2 埋土	陶	土器	蓋		(16.0)	2.5	6.8	27°、指に上 る押正 3377°、27°且 3377°且	10YR8/2 10YR8/2 に似い黄 褐色	1mm以下の右 美・長石・赤 色粒を含む	1mm以下の右 美・長石・赤 色粒を含む	一部	弥生時代 前期		
36	SD2 埋土	陶	土器	鉢		(13.8)	-	[4.6]	3377°、27°、 3377° に似い黄 褐色	10YR7/4 10YR7/4 灰白	1mm以下の右 美・角閃石を 含む	1mm以下の右 美・角閃石を 含む	良	反転		
37	SD2 埋土	陶	土器	鉢		(11.5)	-	[4.45]	3377°、 3377°、 3377° 灰黄	2.5Y7/2 2.5Y7/2 灰黄	2mm以下の右 美・長石・角 閃石・雲母を 含む	2mm以下の右 美・長石・角 閃石・雲母を 含む	良	反転	各部の工 具は異なる	
38	SD2 埋土	陶	土器	鉢		14.0	3.9	7.8	27°、3377°、 27°、3377°、 27°、3377° 灰黄	2.5Y7/3、2.5Y7/4 浅黄	4mm以下の具 石を含む	4mm以下の具 石を含む	やや 不規			
39	SD2 埋土	陶	土器	鉢		(17.1)	2.6	8.5	27°、27°、 3377° 灰黄	2.5Y7/2、 2.5Y7/2 灰黄	1mm以下の右 美・長石を含 む	1mm以下の右 美・長石を含 む	一部	反転		
40	SD2 埋土	陶	土器	鉢		-	(2.4)	[5.2]	板27°、27°、 3377°、3377° 灰黄褐色	10YR8/3 10YR7/3 に似い黄 褐色	2mm以下の右 美・長石を含 む	2mm以下の右 美・長石を含 む	一部	反転		
41	SD2 埋土	陶	土器	鉢		-	-	[4.1]	3377°、27°、 3377°、 3377°、 3377° 灰黄	2.5Y7/2、 2.5Y7/2 灰黄	2mm以下の右 美・長石・角 閃石・雲母を 含む	2mm以下の右 美・長石・角 閃石・雲母を 含む	良	断片	口縁部沿 り黒斑あり	
42	SD2 埋土	陶	土器	鉢		-	-	[3.45]	27°、指顎正 直	2.5Y7/2、 2.5Y7/2 灰黄	1mm以下の右 美・長石を含 む	1mm以下の右 美・長石を含 む	一部	反転		
43	SD2 埋土	陶	剪重土	底部	-	2.8	[4.6]	板27°、27°、 3377°、3377° 灰黄	7.5YR3/4 7.5YR3/4 暗灰黄	1mm以下の右 美・長石・赤 色粒を含む	1mm以下の右 美・長石・赤 色粒を含む	良	反転	外面部：保 化接合部あり		
44	SD2 埋土	陶	剪重土	底部	-	-	[2.3]	3377°、 3377° 灰黄	10YR7/2、 10YR7/2 に似い黄 褐色	1mm以下の右 美・長石・赤 色粒を含む	1mm以下の右 美・長石・赤 色粒を含む	良	反転			
45	SD2 最下層	陶	生土器	便	13.8	-	[3.9]	3377°、3377°、 3377°、 指顎正直	10YR5/3、 10YR5/3 に似い黄 褐色	1mm以下の右 美・長石・雲 母を含む	1mm以下の右 美・長石・雲 母を含む	良	反転	口縁部内 面～外側 煤化		
46	SD2 最下層	陶	生土器	便	(14.0)	-	[4.6]	3377°、3377°、 3377°、 指顎正直・ 板27°、 3377° に似い黄 褐色	10YR6/3、 10YR6/3 に似い黄 褐色	3mm以下の右 美・長石・角 閃石を含む	3mm以下の右 美・長石・角 閃石を含む	良	反転			
47	SD2 最下層	陶	生土器	便	(14.6)	-	[4.6]	3377°、27°、 3377°、 指顎正直・ 3377°、 3377° に似い黄 褐色	SVS/3に 3377°、 3377° に似い黄 褐色	2mm以下の右 美・長石・角 閃石を含む	2mm以下の右 美・長石・角 閃石を含む	良	反転	口縁部外 面：煤化 帶		
48	SD2 最下層	陶	生土器	便	-	[3.4]	[3.45]	3377°、27°、 3377°、 3377°、 3377° 指顎正直・ 3377° に似い黄 褐色	SVS/4に 3377°、 3377° に似い黄 褐色	2mm以下の右 美・長石・角 閃石を含む	2mm以下の右 美・長石・角 閃石を含む	良	反転			
49	SD2 最下層	陶	生土器	便		[20.0]	-	[4.8]	3377°、27°、 3377°、 3377°、 3377° 指顎正直	2.5Y6/2、 2.5Y6/2 に似い黄 褐色	5mm以下の右 美・長石・赤 色粒・雲母を 含む	5mm以下の右 美・長石・赤 色粒・雲母を 含む	良	反転		
50	SD2 最下層	陶	生土器	便		-	[5.8]	3377°、27°、 3377°、 3377°、 3377° 指顎正直	7.5YR3/1 7.5YR3/1 黒褐色	精良	精良	外面部：保 化				

編文 番号	造営/位名	種類	器種	(部位)	法量 (cm)		調整		色調		船主	現成	現存率	備考	
					口径 (復元)	底径 (復元)	高さ [残 存高]	外面	内面	外面					
51	SD2 最下層	弥生 土器	便		(14.2)	-	[6.7]	3379°、 指顎正直 底直	3379°、 指顎正直 底直	7.3YR5/4 に5V4 黒	精 良	2mm以下の右 美・長石・赤 色粒を含む	前面：一 部煤化		
52	SD2 最下層	弥生 土器	便		15.2	-	[6.2]	3379°、 指顎正直 底直	3379°、 指顎正直 底直	10YR5/3 に5V4 黒	精 良	5mm以下の右 美・長石・角 閃石を含む	口縁部外 面：一部 煤化		
53	SD2 最下層	弥生 土器	便		(16.0)	-	[6.1]	3379°、 指顎正直 底直	3379°、 指顎正直 底直	10YR5/2 に5V4 黒	精 良	角閃石を含む	良	反転	
54	SD2 最下層	弥生 土器	便		(16.8)	-	[6.6]	3379°、 指顎正直 底直	3379°、 指顎正直 底直	10YR7/4 に5V4 黒	精 良	3mm以下の右 美・長石・赤 色粒・角閃石 を含む	良	反転	
55	SD2 最下層	弥生 土器	便		(18.7)	-	[13.6]	3379°、 指顎正直 底直	3379°、 指顎正直 底直	10YR5/2 に5V4 黒	精 良	0.5mm以下の右 美・長石を含 む	前面：煤 付着		
56	SD2 最下層	弥生 土器	便		(12.7)	-	[12.5]	3379°、 指顎正直 底直	3379°、 指顎正直 底直	10YR6/3 に5V4 黒	精 良	0.5mm以下の右 美・長石・角 閃石を含む	外・面：煤 付着 内 面：煤化		
57	SD2 最下層	弥生 土器	便		15.0	-	[19.7]	3379°、 指顎正直 底直	3379°、 指顎正直 底直	10YR6/2 に5V4 黒	精 良	0.5mm以下の右 美・長石を含 む	良	反転 外 面：煤 付着	
58	SD2 最下層	弥生 土器	便		(15.6)	-	[7.2]	3379°、 指顎正直 底直	3379°、 指顎正直 底直	7.5YR6/6 に5V4 黒	精 良	3mm以下の右 美・長石・角 閃石を含む	口縁端部： 煤付着		
59	SD2 最下層	弥生 土器	便		12.0	-	[6.1]	3379°、 指顎正直 底直	3379°、 指顎正直 底直	10YR5/2 に5V4 黒	精 良	5mm以下の右 美・長石・赤 色粒を含む	前面：工 具痕？あり		
60	SD2 最下層	弥生 土器	便		(13.4)	-	[3.7]	3379°、 指顎正直 底直	3379°、 指顎正直 底直	10YR7/2 に5V4 黒	精 良	5mm以下の右 美・長石を含 む	良	反転	
61	SD2 最下層	弥生 土器	便		(14.0)	-	[3.7]	3379°、 指顎正直 底直	3379°、 指顎正直 底直	7.5YR6/4 に5V4 黒	精 良	2mm以下の右 美・長石・赤 色粒・角閃石 を含む	良	反転	
62	SD2 最下層	弥生 土器	便		(15.2)	-	[5.2]	3379°、 指顎正直 底直	3379°、 指顎正直 底直	10YR7/1 に5V4 黒	精 良	1mm以下の右 美・長石・赤 色粒を含む	外・面：煤 付着あり		
63	SD2 最下層	弥生 土器	便		13.6	4.6	17.4	指顎正直、 指顎正直、 底直	3379°、 指顎正直、 底直	2.5Y7/2 に5V4 黒	精 良	2mm以下の右 美・長石を含 む	一部 内 外・面：煤 化		
64	SD2 最下層	弥生 土器	便		-	-	[24.8]	3379°、 指顎正直、 底直	3379°、 指顎正直、 底直	10YR6/3 に5V4 黒	精 良	2mm以下の右 美・長石を含 む	外・面：煤 付着		
65	SD2 最下層	弥生 土器	便		-	-	[6.8]	3379°、 指顎正直	3379°、 指顎正直	2.5Y8/1 に5V4 黒	精 良	1mm以下の右 美・長石・赤 色粒を含む	外・面：煤 付着；体 部：黒		
66	SD2 最下層	弥生 土器	便		-	-	[4.2]	3379°、 指顎正直	3379°、 指顎正直	10YR6/2 に5V4 黒	精 良	3mm以下の右 美・長石を含 む	断片		
67	SD2 最下層	弥生 土器	便		-	-	[6.3]	3379°、 指顎正直	3379°、 指顎正直	2.5Y7/3 に5V4 黒	精 良	3mm以下の右 美・長石を含 む	断片		
68	SD2 最下層	弥生 土器	便		-	-	[14.0]	3379°、 指顎正直	3379°、 指顎正直	2.5Y7/2 に5V4 黒	精 良	2mm以下の右 美・長石・角 閃石を含む	外・面：煤 化		
69	SD2 最下層	弥生 土器	便		-	-	[15.65]	3379°、 指顎正直	3379°、 指顎正直	N3/0 錫灰 10YR5/2 に5V4 黒	精 良	2mm以下の右 美・長石を含 む	外・面：黑 斑あり；黑 斑付着		
70	SD2 最下層	弥生 土器	便	底部	-	5.8	[12.1]	3379°、 指顎正直	3379°、 指顎正直	2.5Y8/2 に5V4 黒	精 良	2mm以下の右 美・長石を含 む	一部 反転		
71	SD2 最下層	弥生 土器	白付縁	底部	-	5.5	[6.2]	3379°、 指顎正直	3379°、 指顎正直	2.5Y8/3 に5V4 黒	精 良	3mm以下の右 美・長石・角 閃石を含む	一部 反転		
72	SD2 最下層	弥生 土器	便	底部	-	3.7	[5.3]	3379°、 指顎正直	3379°、 指顎正直	2.5Y7/2 に5V4 黒	精 良	2mm以下の右 美・長石を少 量含む	外・面：煤 化		
73	SD2 最下層	弥生 土器	便 (タ タキ)	底部	-	4.1	[8.5]	3379°、 指顎正直	3379°、 指顎正直	2.5Y7/2 に5V3/1 黒	精 良	2mm以下の右 美・長石・角 閃石・赤色粒 を含む	一部 外・面：煤 付着		
74	SD2 最下層	弥生 土器	便		(16.4)	-	[6.2]	3379°、 指顎正直	3379°、 指顎正直	2.5Y8/4 に5V4 黒	精 良	1mm以下の右 美・長石・赤 色粒を含む	良	反転	
75	SD2 最下層	弥生 土器	便		(15.7)	-	[4.8]	3379°、 指顎正直	3379°、 指顎正直	2.5Y7/2 に5V7/2 黒	精 良	1mm以下の右 美・長石を含 む	良	反転	

規文 番号	構成/ 位局名	種類	器種	(部位)	法量(cm)		調整		色調		歯士	填 充	残存 率	備考	
					口径 (復元) (復元)	底径 (復元) (復元)	高さ(復 元)	外側	内側	外側	内側				
76	S02 最下層	弥生 土器	壺		[16.8]	[6.0]	297mm、 φ79mm	指捺压痕、 縦縞、竹 青文	指捺压痕、 縦縞、 φ79mm	5.7SYR4/ 4.7SYR4 青 色粒を含む	1mm以下の石 英、長石、角 閃石、赤色粒 を含む	良	反転		
77	S02 最下層	弥生 土器	壺		[17.0]	[7.7]	94mm、 φ32mm	1.5mm、 縦縞、竹 青文	1.5mm、 縦縞、 指捺压 痕	10YR6/4 にぶい黄 褐色	3mm以下の石 英、長石、角 閃石、赤色粒 を含む	良	反転		
78	S02 最下層	弥生 土器	壺		[17.8]	[6.8]	323mm、 φ80mm	323mm、 縦縞、 指捺压 痕	323mm、 縦縞、 指捺压 痕	10YR5/3 にぶい黄 褐色	1mm以下の石 英、長石、角 閃石、赤色粒 を含む	良	反転		
79	S02 最下層	弥生 土器	壺		[15.9]	[10.4]	305mm、 φ79mm	305mm、 縦縞、 刺突 竹青文	305mm、 縦縞、 刺突 竹青文	10YR6/2 にぶい黄 褐色	1mm以下の石 英、長石、角 閃石、赤色粒 を含む	良	反転	内面: 部端化	
80	S02 最下層	弥生 土器	長頸壺		[18.4]	-	327mm、 縦縞 3周	327mm、 指捺压 痕	327mm、 指捺压 痕	10YR5/3 にぶい黄 褐色	2mm以下の石 英、長石、角 閃石、赤色粒 を含む	良	反転	内面: 部端化	
81	S02 最下層	弥生 土器	長頸壺	頸部	-	[9.2]	327mm、 φ79mm	327mm、 指捺压 痕	327mm、 指捺压 痕	10YR5/3 にぶい黄 褐色	石英、長石、 角閃石、赤色 粒を含む	良	反転		
82	S02 最下層	弥生 土器	長頸壺	頸部	-	[11.7]	79mm	79mm	79mm	5YR5/6 にぶい黄 褐色	石英、長石、 角閃石、赤色 粒を含む	良	反転		
83	S02 最下層	弥生 土器	長頸壺	-	-	[9.4]	327mm、 φ79mm	327mm、 板押 縦縞	327mm、 板押 縦縞	2.5YR5/3 にぶい黄 褐色	3mm以下の黄 石英、2.5mm以 下の角閃石、 金雲母を含む	良	反転		
84	S02 最下層	弥生 土器	長頸壺	-	-	[9.9]	φ25mm	φ25mm	φ25mm	2.5YT7/2 K3.0隋灰 青	1mm以下の石 英、長石、角 閃石、赤色 粒を含む	良	反転	外側: 部端化	
85	S02 最下層	弥生 土器	小型 丸底壺	-	-	[4.0]	17mm、 →25mm	17mm、 縦縞	17mm、 縦縞	10YR5/3 にぶい黄 褐色	10YR5/3 にぶい黄 褐色	良	杯 部のみ		
86	S02 最下層	弥生 土器	壺		[11.8]	[7.6]	327mm、 縦縞	327mm、 縦縞、 指捺压 痕	327mm、 縦縞、 指捺压 痕	10YR8/2 にぶい黄 褐色	3mm以下の石 英、長石、角 閃石、赤色 粒を含む	良	一部 外付着		
87	S02 最下層	弥生 土器	壺	-	-	[6.7]	板押 縦縞、 φ25mm	板押 縦縞、 φ25mm	板押 縦縞、 φ25mm	10YR7/2 にぶい黄 褐色	無鉛釉を少量 含む	良	反転	外側: 付着	
88	S02 最下層	弥生 土器	壺	-	-	[6.5]	φ25mm、 縦縞	φ25mm、 縦縞	φ25mm、 縦縞	10YR7/3 にぶい黄 褐色	2mm以下の石 英、長石を含む	良	断片		
89	S02 最下層	弥生 土器	二重口 縦縞		[17.2]	-	327mm、 縦縞	327mm、 縦縞	327mm、 縦縞	10YR8/2 にぶい黄 褐色	2.5YR8/2 にぶい黄 褐色	良	反転		
90	S02 最下層	弥生 土器	二重口 縦縞		[18.7]	-	[5.6]	327mm、 縦縞	327mm、 縦縞	2.5YR7/2 にぶい黄 褐色	2.5YR7/2 にぶい黄 褐色	良	反転		
91	S02 最下層	弥生 土器	二重口 縦縞		[18.2]	-	[10.4]	327mm、 縦縞	327mm、 縦縞	10YR7/2 にぶい黄 褐色	2.5YR7/2 にぶい黄 褐色	良	反転		
92	S02 最下層	弥生 土器	二重口 縦縞		-	[2.8]	327mm、 縦縞	327mm、 縦縞	327mm、 縦縞	2.5YR2/2 灰白	2.5YR2/2 灰白	良	反転		
93	S02 最下層	弥生 土器	二重口 縦縞		-	[4.0]	297mm、 縦縞	297mm、 縦縞	297mm、 縦縞	10YR4/1 10YR4/1 灰白	3mm以下の石 英、長石を含む	良	断片		
94	S02 最下層	弥生 土器	二重口 縦縞	口縫部	-	[2.8]	327mm、 縦縞	327mm、 縦縞	327mm、 縦縞	2.5YR7/3 浅黃	2.5YR7/3 浅黃	良	付着 断片		
95	S02 最下層	弥生 土器	壺	底部	-	[4.6]	54mm	54mm	54mm	2.5YR3/3 灰白	2.5YR3/3 灰白	良	反転		
96	S02 最下層	弥生 土器	壺	底部	-	[6.2]	[5.05]	17mm、 縦縞	17mm、 縦縞	10YR7/3 にぶい黄 褐色	1.5mm以下の石 英、長石、角 閃石、赤色 粒を含む	良	反転	底部: 深化	
97	S02 最下層	弥生 土器	壺	底部	-	[6.8]	[4.6]	17mm、 縦縞	17mm、 縦縞	2.5YR7/2 灰白	1.5mm以下の石 英、長石、角 閃石、赤色 粒を含む	良	一部 外側: 黒斑		
98	S02 最下層	弥生 土器	壺	底部	-	[7.6]	[4.2]	板押 縦縞	板押 縦縞	2.5YR7/2 灰白	2.5YR7/2 灰白	良	反転		
99	S02 最下層	弥生 土器	壺	底部	-	[5.0]	[5.25]	17mm、 縦縞	17mm、 縦縞	10YR6/3 にぶい黄 褐色	1.5mm以下の石 英、長石、角 閃石、赤色 粒を含む	良	一部 外側: 黒斑		
100	S02 最下層	弥生 土器	壺	底部	-	[5.2]	[5.6]	297mm、 縦縞	297mm、 縦縞	2.5YR7/2 灰白	1.5mm以下の石 英、長石、角 閃石、赤色 粒を含む	良	一部 底部: 腐蝕あり		
101	S02 最下層	弥生 土器	壺	-	-	[3.6]	[12.9]	φ25mm、 縦縞	φ25mm、 縦縞	10YR5/1 2.5YR6/2 灰白	3mm以下の石 英、長石、角 閃石を含む	良	一部 外側: 付着		

編文 番号	遺構・ 部位名	種類	器種	(部位)	法量 (cm)		調整		色調		船土	現存 率	備考	
					口径 (復元)	底径 (復元)	高さ(残 存高)	外面	内面	外面				
102	SD2 最下層	弥生 土器	壺	底部	-	5.0	[8.0]	6978 ⁺	6978 ⁺	10TR5/3 に、赤い黄 褐色	精良	1mm以下の右 美、長石、赤 色鉱石を含む	良好	一部 反転
103	SD2 最下層	弥生 土器	壺 or 壺	底部	-	5.6	[4.0]	7279 ⁺ ~7279 ⁺	7279 ⁺	10TR4/2 に、赤い黄 褐色	10TR2/1 に、赤い黄 褐色	5mm以下の右 美、長石、赤 色鉱石を含む	良好	一部 反転 外面：保 化
104	SD2 最下層	弥生 土器	画杯	杯部	(18.0)	-	[4.1]	7279 ⁺ ~7279 ⁺	7279 ⁺	10TR6/4 に、赤い黄 褐色	10TR6/4 に、赤い黄 褐色	1mm以下の右 美、長石、赤 色鉱石を含む	良好	一部 反転
105	SD2 最下層	弥生 土器	画杯	杯部	(19.0)	-	[3.8]	7279 ⁺ ~7279 ⁺	7279 ⁺	10TR5/3 に、赤い黄 褐色	10TR5/3 に、赤い黄 褐色	1mm以下の右 美、長石、赤 色鉱石を含む	良好	一部 反転
106	SD2 最下層	弥生 土器	画杯	杯部	(24.0)	-	[4.0]	7279 ⁺	7279 ⁺ , 7279 ⁺	SYR6/6 横	SYR6/6 横	1mmの大黒雲 母、赤色鉱石を 含む	良好	一部 反転
107	SD2 最下層	弥生 土器	画杯	杯部	(15.8)	-	[2.9]	7279 ⁺ ~7279 ⁺	7279 ⁺ , 7279 ⁺	10YR4/3 に、赤い黄 褐色	10YR4/3 に、赤い黄 褐色	黒雲母、長石、 赤色鉱石を含む	良好	一部 反転
108	SD2 最下層	弥生 土器	画杯	杯部	(16.2)	-	[3.6]	7279 ⁺ ~7279 ⁺	7279 ⁺ , 7279 ⁺ →7279 ⁺	10TR6/4 に、赤い黄 褐色	10TR6/4 に、赤い黄 褐色	1mm~5mmの 赤色鉱石を含む、 角閃石を含む	良好	一部 反転
109	SD2 最下層	弥生 土器	画杯	杯部	(40.2)	-	[13.55]	7279 ⁺ , 分割 →7279 ⁺	7279 ⁺ , 分割 →7279 ⁺ , 指 印直氣	10YR6/2 に、赤い黄 褐色	10YR6/2 に、赤い黄 褐色	1mm以下の右 美、長石を含む	良好	一部 反転 外面：一 部保化
110	SD2 最下層	弥生 土器	画杯	杯部	22.4	-	[8.1]	7279 ⁺ ~7279 ⁺ →7279 ⁺	7279 ⁺ , 分割 →7279 ⁺ , 7279 ⁺ →7279 ⁺	10TR4/2 に、赤い黄 褐色	10TR4/2 に、赤い黄 褐色	1mm以下の金 雲母を含む	良好	杯のみ
111	SD2 最下層	弥生 土器	画杯	杯部	14.4	-	[7.0]	7279 ⁺ ~7279 ⁺	7279 ⁺ , 7279 ⁺ →7279 ⁺	7, SYR7/4 に、赤い黄 褐色	10TR6/2 に、赤い黄 褐色	金雲母、角閃 石、赤色鉱石を 含む	良好	一部 反転
112	SD2 最下層	弥生 土器	画杯?		-	-	[4.0]	7279 ⁺ , 7279 ⁺	7279 ⁺	7, SYR6/4 に、赤い黄 褐色	10YR5/3 に、赤い黄 褐色	2mm以下の右 美、長石、赤 色鉱石を含む	良好	一部 反転
113	SD2 最下層	弥生 土器	画杯	杯部	-	-	[3.1]	7279 ⁺ ~7279 ⁺	7279 ⁺ , 7279 ⁺ →7279 ⁺	10YR5/3 に、赤い黄 褐色	10YR5/3 に、赤い黄 褐色	長石、黒雲母、 赤色鉱石を含む	良好	断片
114	SD2 最下層	弥生 土器	画杯	杯部	-	-	[4.5]	7279 ⁺ , 7279 ⁺ →7279 ⁺	7279 ⁺ , 7279 ⁺	7, SYR4/2 に、赤い黄 褐色	2, 5Y6/2 に、赤い黄 褐色	角閃石を含む	良好	断片
115	SD2 最下層	弥生 土器	画杯		23.0	18.4	16.5	7279 ⁺ ~7279 ⁺ →7279 ⁺	7279 ⁺ , 分割 →7279 ⁺ , 7279 ⁺ →7279 ⁺	7, SYR6/4 に、赤い黄 褐色	10YR5/3 に、赤い黄 褐色	5mm以下の赤 色鉱石を含む	良好	円孔1個 1対3万、円孔1個 1対5万
116	SD2 最下層	弥生 土器	画杯	杯部	(25.8)	-	[9.45]	7279 ⁺ , 7279 ⁺ →7279 ⁺	7279 ⁺ , 分割 →7279 ⁺	10TR6/4 に、赤い黄 褐色	10TR6/4 に、赤い黄 褐色	1mm以下の右 美、長石、赤 色鉱石を含む	良好	一部 円盤充填
117	SD2 最下層	弥生 土器	画杯	杯部	(23.0)	-	[3.5]	7279 ⁺ ~7279 ⁺	7279 ⁺	10TR5/2 に、赤い黄 褐色	10TR5/2 に、赤い黄 褐色	1mm以下の右 美、長石、赤 色鉱石を含む	良好	反転
118	SD2 最下層	弥生 土器	画杯	杯部	(24.0)	-	[3.7]	7279 ⁺	7279 ⁺ , 7279 ⁺ →7279 ⁺	7, SYR6/4 に、赤い黄 褐色	7, SYR6/4 に、赤い黄 褐色	1mmの金雲 母、赤色鉱石を 含む	良好	反転
119	SD2 最下層	弥生 土器	画杯	杯部	(26.6)	-	[4.0]	7279 ⁺ ~7279 ⁺	7279 ⁺	10TR5/2 に、赤い黄 褐色	10TR5/2 に、赤い黄 褐色	黒雲母、白雲 母、赤色鉱石、 長石を含む	良好	反転
120	SD2 最下層	弥生 土器	画杯	杯部	(26.8)	-	[4.3]	7279 ⁺ ~7279 ⁺	7279 ⁺ , 7279 ⁺ →7279 ⁺	10YR5/2 に、赤い黄 褐色	10YR5/2 に、赤い黄 褐色	1mmの右美、 赤美、赤色鉱石 を含む	良好	反転
121	SD2 最下層	弥生 土器	画杯	杯部	(27.0)	-	[3.8]	7279 ⁺ ~7279 ⁺	7279 ⁺ , 7279 ⁺ →7279 ⁺	10YR5/4 に、赤い黄 褐色	10YR5/4 に、赤い黄 褐色	1mm~3mmの 赤色鉱石、雲母 を含む	良好	外面：黑 斑あり
122	SD2 最下層	弥生 土器	画杯	脚部	-	17.6	[2.3]	7279 ⁺ ~7279 ⁺	7279 ⁺	10YR5/3 に、赤い黄 褐色	10YR5/3 に、赤い黄 褐色	黒雲母、石英、 長石を含む	良好	黒斑あり
123	SD2 最下層	弥生 土器	画杯	脚部	-	(8.8)	[5.5]	7279 ⁺ , 7279 ⁺	7279 ⁺ , 7279 ⁺	2, 5Y7/2 に、赤い黄 褐色	2, 5Y7/2 に、赤い黄 褐色	3mm以下の右 美、長石、赤 色鉱石を含む	良好	円形3孔4 個
124	SD2 最下層	弥生 土器	高杯	脚部	-	9.5	[4.9]	7279 ⁺ , 指 印 ⁺	7279 ⁺	2, 5Y8/2 に、赤い黄 褐色	2, 5Y8/2 に、赤い黄 褐色	2mm以下の右 美、長石、赤 色鉱石を含む	良好	脚部：粘 土付着
125	SD2 最下層	弥生 土器	脚		27.6	-	[6.2]	7279 ⁺ , 7279 ⁺	7279 ⁺	10TR7/3 に、赤い黄 褐色	10TR7/3 に、赤い黄 褐色	5mm以下の右 美、長石、赤 色鉱石を含む	良好	反転
126	SD2 最下層	弥生 土器	(片口) 脚		-	-	[13.1]	7279 ⁺ , 7279 ⁺ →7279 ⁺	7279 ⁺ , 7279 ⁺ →7279 ⁺	7, SYR5/4 に、赤い黄 褐色	7, SYR5/4 に、赤い黄 褐色	0.5mm以下の右 美、角閃石を含む	良好	断片
127	SD2 最下層	弥生 土器	脚		(18.6)	-	[5.65]	7279 ⁺ , 7279 ⁺ →7279 ⁺	7279 ⁺ , 7279 ⁺ →7279 ⁺	2, 5Y7/1 に、赤い黄 褐色	2, 5Y7/1 に、赤い黄 褐色	1mm以下の右 美、長石、角 閃石を含む	良好	脚部：黑 斑あり
128	SD2 最下層	弥生 土器	大型脚		-	-	[5.3]	7279 ⁺ , 7279 ⁺ →7279 ⁺	7279 ⁺ , 7279 ⁺ →7279 ⁺	7, SYR5/4 に、赤い黄 褐色	7, SYR5/4 に、赤い黄 褐色	2mm以下の右 美、赤色鉱石を 含む	良好	断片

編文 番号	遺構・ 部位名	種類	器種	(部位)	法量 (cm)		調整		色調		胎土	焼成	現存 率	備考
					口径 (復元)	底径 (復元)	高さ [残 存高]	外面	内面	外面				
129	SD2 最下層	弥生 土器	鉢		15.2	-	[5.6]	3339°、内 3339°、外	2.5Y5/1 黄灰	2.5Y5/2 黄灰	5mm以下の石 英・長石・赤 土を含む	良	反転	外面：煤 化
130	SD2 最下層	弥生 土器	鉢		-	-	[3.8]	3339°、内 3339°、外	2.5Y7/2 白 灰灰	2.5Y7/2 白 灰灰	2mm以下の石 英・長石・赤 土を含む	良	断片	
131	SD2 最下層	弥生 土器	鉢		-	-	[7.2]	777 777	10YR7/4 にぶい黄 褐色	2.5Y7/2 白 灰灰	3mm以下の石 英・長石を含 む	良	断片	
132	SD2 最下層	弥生 土器	鉢		(14.0)	-	[5.1]	77°、内 77°、外	2.5Y7/2 黄灰	2.5Y7/2 黄灰	2mm以下の石 英・長石を含 む	良	反転	
133	SD2 最下層	弥生 土器	鉢		(15.0)	3.6	[8.5]	3339°、内 3339°、外 3339°、板付	2.5Y8/2 灰白	2.5Y8/2 灰白	1mm以下の石 英・長石・赤 土を含む	不 良	反転	口縁部外 面：煤化 部不良；燒器 部不明
134	SD2 最下層	弥生 土器	鉢		12.8	2.7	6.2	77°、ペラス 77°、指顎压 痕	7.5YR7/3 にぶい黄 褐色	7.5YR7/3 白 灰白	1mm以下の石 英・長石・赤 土を含む	良	完形	
135	SD2 最下層	弥生 土器	鉢		(12.6)	-	[4.15]	3339° 板付？ C 77°→3339°	2.5Y8/1 灰白	2.5Y8/2 灰白	1mm以下の石 英・長石を含 む	良	反転	内面：黑 斑あり
136	SD2 最下層	弥生 土器	鉢		(6.55)	3.2	6.65	77°、77° 77°、工具痕	2.5Y7/2 黄灰	2.5Y7/2 黄灰	0.5mm以下の石 英・長石を含 む	一部 反転		
137	SD2 最下層	弥生 土器	鉢	底部	-	3.4	[6.3]	77°、指顎压 痕	10YR7/3 にぶい黄 褐色	10YR7/3 白 灰白	1mm以下の石 英・長石を含 む	一部 反転		一部煤化； 底部：穿孔1個
138	SD2 最下層	弥生 土器	鉢	底部	-	2.0	[3.7]	77° 指顎压痕	2.5Y7/3 黄灰	2.5Y7/3 黄灰	1mm以下の石 英・長石を含 む	一部 反転		底部：穿孔1個
139	SD2 最下層	弥生 土器	鉢		-	2.7	[5.0]	板付? 77°、77°	2.5Y8/2 灰白	2.5Y8/2 灰白	1mm以下の石 英・長石を含 む	一部 反転		
140	SD2 最下層	弥生 土器	鉢		-	(3.0)	[3.3]	77° 77°	10YR6/2 黄褐色	2.5Y7/2 黄灰	1mm以下の石 英・長石を含 む	一部 反転		
141	SD2 最下層	弥生 土器	鉢	底部	-	4.0	[4.1]	77°、77° 板付?	2.5Y8/2 灰白	2.5Y8/2 灰白	0.5mm以下の石 英・長石を含 む	一部 反転		
142	SD2 最下層	弥生 土器	鉢	底部	-	3.6	[2.9]	77° 77°	10YR8/2 灰白	10YR8/2 灰白	1mm以下の石 英・長石を含 む	一部 反転		
143	SD2 最下層	弥生 土器	鉢		-	(1.1)	[2.4]	77° 77°	7.5YR8/4 浅黄褐色	7.5YR8/4 浅黄褐色	1mm以下の石 英・長石・赤 色を含む	一部 反転		
144	SD2 最下層	弥生 土器	口縁部	(9.6)	-	[4.3]	77°、77°、77° 板付?	N5/0灰 N5/0灰	精良	1mm以下の石 英・長石を含 む	良	反転	145と同 一	
145	SD2 最下層	弥生 土器	口縁部	大瓶底	(3.4)	[11.0]	77°、77° 板付?	2.5Y5/1 黄灰	2.5Y5/1 灰白	2mm以下の石 英・長石を含 む	一部 反転		底部：工 芸品あり	
146	SD2 最下層	弥生 土器	製塙土 器	口縁部	(10.1)	-	[5.9]	77° 77°	2.5Y6/2 黄灰	2.5Y6/2 黄灰	1mm以下の石 英・長石・角 閃石を含む	良	反転	
147	SD2 最下層	弥生 土器	製塙土 器	口縁部	-	-	[4.5]	77° 77°、板付?	5Y5/2 オリーブ 灰黄	5Y5/2 灰 灰黄	1mm以下の石 英・長石・雲母 ・角閃石を含 む	精良	断片	
148	SD2 最下層	弥生 土器	製塙土 器	口縁部	-	-	[3.5]	77° 77°、板付? の工具板	2.5Y4/1 黄灰	2.5Y4/2 黄灰	1mm以下の石 英・長石・角 閃石・雲母を 含む	精良	断片	
149	SD2 最下層	弥生 土器	製塙土 器	底部	-	3.4	[3.85]	指顎压痕、77° 77°	2.5Y5/2 暗灰黄	2.5Y5/2 暗灰黄	1mm以下の石 英・長石・角 閃石・角閃石 を含む	良	反転	底部・脚 部内面 黒斑あり
150	SD2 最下層	弥生 土器	製塙土 器	底部	-	(3.6)	[4.0]	77°、指顎压 痕、77° 板付?	5Y7/3 灰 5Y5/1灰	5Y7/3 灰 5Y5/1灰	2mm以下の石 英・長石・0.5 mm以下の角 閃石を含む	精良	一部 反転	外 部：底 部着
151	SD2 最下層	弥生 土器	製塙土 器	底部	-	-	[3.5]	77°、77° 指顎压 痕、77°	10YR4/1 灰	N5/0灰	1mm以下の石 英・雲母を多 量含む	精良	反転	
152	SD2 最下層	弥生 土器	製塙土 器	底部	-	(3.4)	[2.8]	77°、指顎压 痕、77° 指顎压 痕	10YR5/2 黄褐色	7.5YR4/2 灰褐色	1mm以下の石 英・長石・角 閃石を含む	精良	一部 反転	底部：保 持着
153	SD2 最下層	弥生 土器	製塙土 器	底部	-	3.2	[1.7]	77°、77° 板付?	2.5Y6/2 黄灰	2.5Y6/2 黄灰	3mm以下の石 英・長石・角 閃石を含む	精良	一部 反転	
154	SD2 最下層	弥生 土器	製塙土 器	底部	-	2.4	[1.7]	77°、指顎压 痕	2.5Y8/2 灰白	2.5Y8/2 灰白	1mm以下の石 英・長石を含 む	一部 反転		外 部：煤 化

編文 番号	遺構・ 部位名	種類	器種	(部位)	法量 (cm)		調整		色調		新土	現成	現存 率	備考	
					口径 (復元)	底径 (復元)	高さ [残 存高]	外面	内面	外面					
155	SD2 最下層	陶生 土器	器台?		-	-	[1.7]	網織文	??	7.5YR6/4 に5V4褐色	青 葉・長石を含む	4mm以下の右 葉・長石を含む	断片	接合しない のが同一個体の可 能性高い	
156	SD2 最下層	陶生 土器	追種 不 明		-	-	[2.7]	??	??	SYR6/6褐色	青	1mm以下の右 葉・長石・赤色 鉄を含む	断片		
157	SD2B 埋土	陶生 土器	甕		[12.7]	-	[6.3]	??、??	??、??	10YR5/2 に5V1褐色	青 葉	1mm以下の右 葉・長石・角閃石 を含む	良 反転		
158	SD2B 上層	陶生 土器	甕		[13.0]	-	[6.9]	??、??、??	指顎 正瓶	10YR6/2 に5V1褐色	青 葉	1mm以下の右 葉・長石・角閃石 を含む	良 反転 外面: 黑 斑あり		
159	SD2B 埋土	陶生 土器	甕		[14.6]	-	[6.0]	??、??、??、 ??、??	??	7.5YR6/4 に5V4褐色	青 葉	1mm以下の右 葉・長石・角閃石 を含む	良 反転		
160	SD2B 上層	陶生 土器	甕		[15.0]	-	[5.2]	??、??、 ??、??、??	指顎 板??	10YR5/3 に5V1褐色	青 葉	2mm以下の右 葉・長石・角閃石 を含む	良 反転		
161	SD2B 上層	陶生 土器	甕		[15.2]	-	[7.9]	??、??、??	指顎 正瓶	10YR5/2 に5V1褐色	青 葉	3mm以下の右 葉・長石・角閃石 を含む	良 反転 外面: 黑 斑あり		
162	SD2B 埋土	陶生 土器	甕		[21.4]	-	[6.0]	??、??、 ??、??、??	指顎 正瓶、??	7.5YR4/4 に5V4褐色	青 葉	4mm以下の右 葉・長石・雲母 を含む	良 反転 掛け て上げる		
163	SD2B 上層	陶生 土器	甕		[16.8]	-	[16.05]	??、??、 ??、??、 ??、??	指顎 正瓶、??	10YR5/4 に5V1褐色	青 葉	2mm以下の右 葉・長石・角閃石 を含む	良 反転 外面: 黑 斑あり		
164	SD2B 上層	陶生 土器	甕 or 製 部		5.4	[1.9]	-	??、??、 ??	指顎 正瓶、??	10YR6/3 に5V1褐色	青 葉	0.5mm以下の 右葉・長石・角 閃石・雲母を含む	一部 黒部: 黑 斑あり		
165	SD2B 上層	陶生 土器	甕	底部	5.4	[7.4]	-	??、??、 ??	??、??	7.5YR6/3 に5V4褐色	青 葉	1mm以下の右 葉・長石・角 閃石・雲母を含む	一部 黑部: 黑 斑あり		
166	SD2B 最下層	陶生 土器	高杯	杯部	[38.4]	-	[9.1]	??、??、 ??、??	指顎 正瓶、??	10YR5/4 に5V1褐色	7.5YR5/4 に5V4褐色	青 葉	1mm以下の右 葉・長石・角 閃石・雲母を含む	良 反転	
167	SD2B 最下層	陶生 土器	杯		[15.0]	-	[6.1]	??、??、 ??、??	指顎 正瓶、??	10YR7/2 に5V1褐色	2.5Y7/2 灰黃	1mm以下の右 葉・長石・雲 母を含む	良 反転 内面: 漆 化		
168	SD2B 埋土	追種 不 明	体部		-	-	[4.9]	??	指顎正瓶	7.5YR5/4 に5V4褐色	青 葉	1.5mm以下の 右葉・長石・赤 色鉄を含む	断片	地成前漆 孔あり	
169	SD2B 埋土	陶生 土器	製塙土 器	底部	-	(3.4)	[1.5]	板??、??、 ??、??	??	10YR3/1 黒鉄	2.5Y3/1 褐風	3mm以下の 右葉・長石・角 閃石・赤色鉄・ 雲母を含む	良 反転	内 外面: 漆孔有	
170	SD2B 埋土	陶生 土器	杯		(33.8)	-	[7.0]	??、 ??、 ??、 ??	指顎 正瓶、??、??、 ??	2.5Y7/3 浅黃	青 葉	3mm以下の右 葉・長石・角 閃石・赤色鉄・ 雲母を含む	良 反転		
171	SD2B 埋土	陶生 土器	器台		(29.4)	-	[3.5]	??、??、 ??、??	??、??	7.5YR6/3 に5V4褐色	7.5YR6/3 に5V4褐色	1.5mm以下の 右葉・1mm以 下の金雲母を含 む	良 反転		
172	SD2B 埋土	陶生 土器	甕 or 製 部		(4.6)	[3.65]	-	??、 ??、 ??、 ??、 ??	指顎 正瓶、??、??、 ??	2.5Y7/2 灰黃	3mm以下の 右葉・石英・角 閃石・長石を含 む	良 反転	内面: 漆 化 外面: 一部漆化		
173	SD2 最下層	陶生 土器	高杯		(20.0)	-	[3.05]	??、 ??、 ??、 ??、 ??	指顎 正瓶、貝殻文 、綠江漬文	2.5Y8/2 灰白	2.5Y8/2 灰白	2mm以下の右 葉・長石を含 む	良 反転	岡山系?	
174	SD2 埋土	陶生 土器	高杯	脚部	-	16.6	[6.75]	??	??	10YR5/2 に5V1褐色	10YR5/2 に5V1褐色	0.5mm以下の 角閃石を含む	一部 反転	円孔個 所: 1 円孔: 2 1時3分(1 個木質油)	
175	SD24	陶生 土器	甕		23.4	-	[5.5]	??、??	??	2.5Y7/2 灰黃	2.5Y7/2 灰黃	5mm以下の砂 粒を含む	良 反転	内面: 漆 化	
176	SD30	陶生 土器	甕	底部	-	5.2	[3.4]	??、??、 ??	指顎正瓶	2.5Y6/3 に5V1褐色	青 葉	1mm以下の右 葉・長石・赤 色鉄・雲母を含 む	良 反転	内面: 黑 斑あり	
177	SD27	陶生 土器	甕 or 製 部		4.2	[7.2]	-	??、 ??、 ??、 ??、 ??	指顎正瓶	2.5Y8/2 灰白	1mm以下の赤 色鉄を含む	良 反転			
178	SD10 西 理土	陶生 土器	甕 or 製 部		(6.1)	[5.65]	??、??	??、??	??	10YR6/2 に5V1褐色	青 葉	5mm以下の砂 粒を含む	一部 反転		
179	SD2 最下層	陶生 土器	追種 不 明	底部	-	-	-	-	-	-	-	-	-	地成 破 等真の	

第2表 木製品観察表

報文番号	遺構 / 層位名	種類	機種	法量 (cm)			樹種	備考
				最大長	最大幅	最大厚		
W1	SD2 最下層	木製品	鉛	21.8	11.8	1.5	コナラ属アカシヤ属	加工痕(ヤリガンナ)あり
W2	SD2 最下層	木製品	泥除け	25.1	8.5	1.6	コナラ属アカシヤ属	穿孔1個
W3	SD2 最下層	木製品	不明	15.4	6.1	1.3	コナラ属アカシヤ属	加工痕あり
W4	SD2 最下層	木製品	不明	20.3	7.4	1.15	クスノキ	加工痕(ヤリガンナ)あり
W5	SD2 最下層	木製品	不明	16.9	2.9	1.5	コナラ属アカシヤ属	
W6	SD2 最下層	木製品	柄か	22.9	5.1	2.7	エノキ属	炭化箇所あり
W7	SD2 理土	木製品	不明	9.2	3.0	0.7		使用痕あり
W8	SD2 理土	木製品	不明(皮付き板状)	8.9	3.3	0.6		
W9	SD2 理土	木製品	不明(皮付き板状)	11.3	5.2	0.9		
W10	SD2 理土	木製品	不明	10.5	6.6	1.8		
W11	SD2 理土	木製品	不明	5.3	5.4	3.5		
W12	SD2 理土	木製品	不明	6.1	2.8	0.9		
W13	SD26 黒色粘土層	木製品	不明	22.1	2.9	1.2		
W14	SD26 黒色粘土層	木製品	不明	12.6	2.6	2.1		
W15	SD2 理土	木製品	樹皮	-	-	-		写真のみ

第3表 石器・金属製品観察表

報文番号	遺構 / 層位名	種類	機種	法量 (cm)			重量(g)	石材	備考
				最大長	最大幅	最大厚			
S1	SR10 西側 理土	石器	スクレイバー	4.5	2.7	0.8	10.0	サヌカイト	
S2	SR10 西側 理土	石器	MF	4.6	4.5	1.2	27.3	サヌカイト	微細剝離痕あり
S3	包含層	石器	石鏃	4.9	1.7	0.4	3.7	サヌカイト	
S4	包含層	石器	MF	4.4	4.6	0.5	10.6	サヌカイト	微細剝離痕あり
S5	重機掘削	石器	打製石斧	8.8	5.4	1.2	(82, 3)	サヌカイト	使用痕あり
S6	SD2 上面	石器	礫石	12.3	7.5	3.6	509.9	砂岩	
S7	SD2 理土	石器	礫石	13.9	7.8	3.9	475.6	砂岩	
M1	混乱	金属製品	高輪四文銭	2.8	2.8	0.1	4.0		文政～安政期



北側区画全景（東から）



西側区画全景（北から）



南東区画全景（東から）

図版2



第2調査区全景（東から）



SR10 東側（北西から）



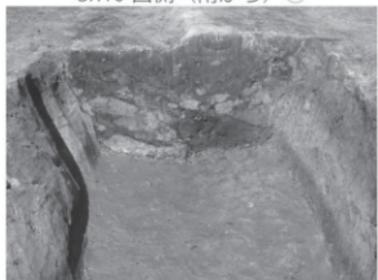
SR10 西側（南から）



SR10 西側（南から）①



SR10 西側（南から）②



SD 2 A断面（東から）



SD 2 B断面（東から）



SD 2・20 C断面（南から）



SD 2木製品出土状況（南から）

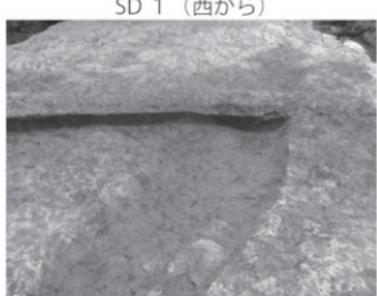


SD20 土器出土状況（西から）



SD27 断面（東から）

図版4

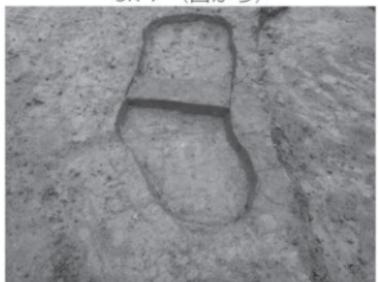




SK 7 (西から)



SK 9 (東から)



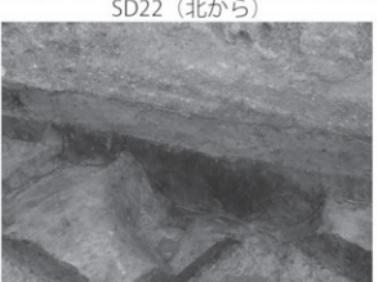
SK21 (東から)



SD22 (北から)



SD25 (東から)



SD50・SK51 (西から)



SK31 (南から)



SP32 (南から)



SD 2 埋土出土土器 1



SD 2 埋土出土土器 2

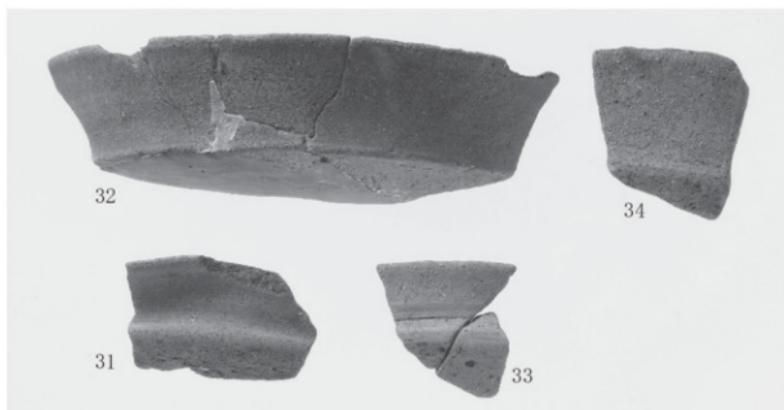


SD 2 埋土出土土器 3

図版9



SD 2 埋土出土土器 4

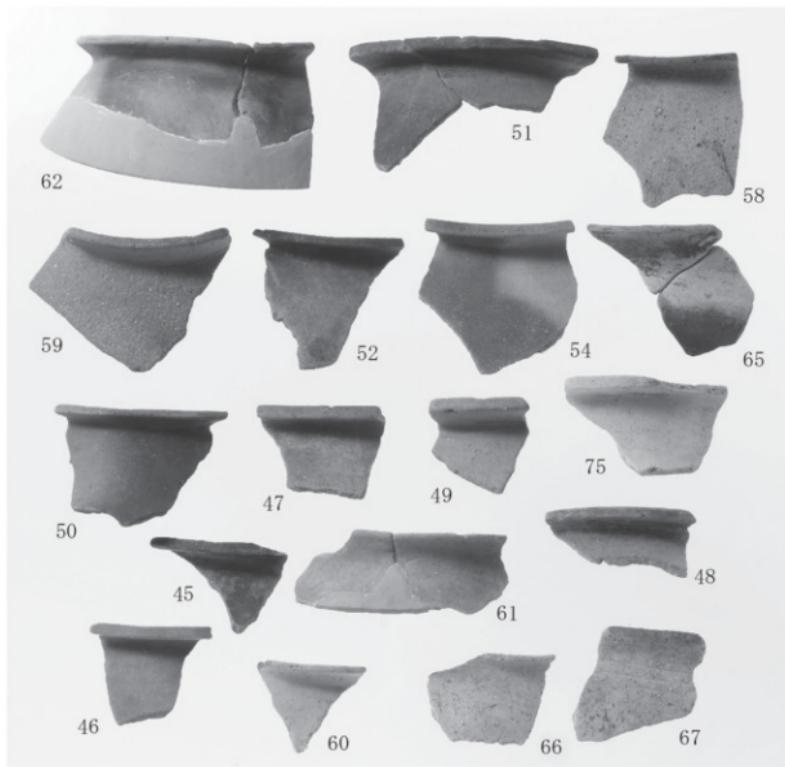


SD 2 埋土出土土器 5

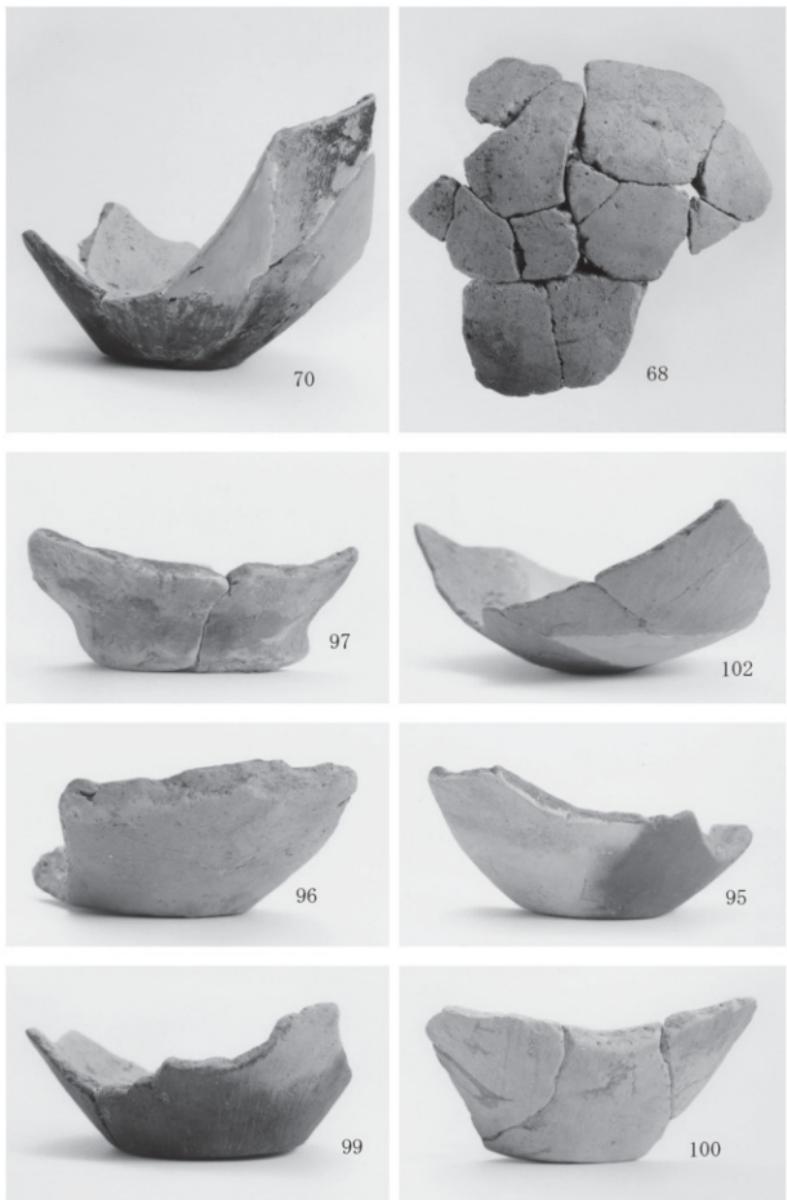


SD 2 最下層出土土器 1

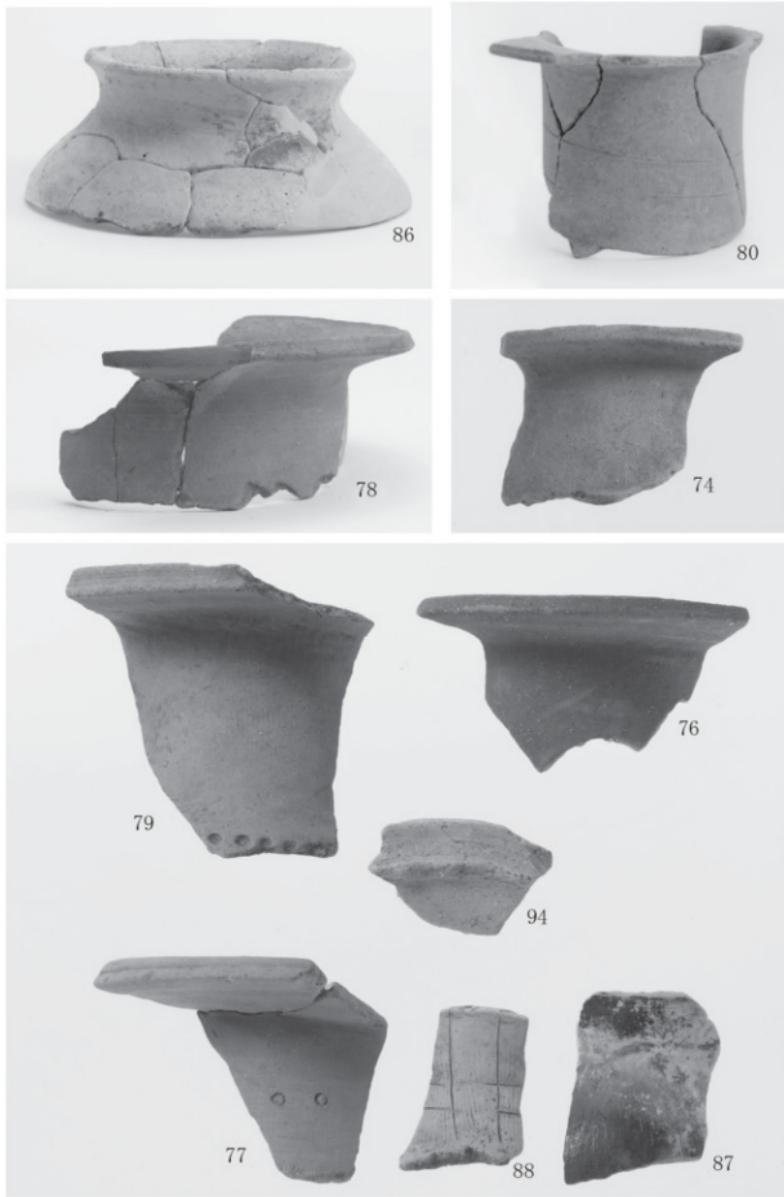
図版 12



SD 2 最下層出土土器 2

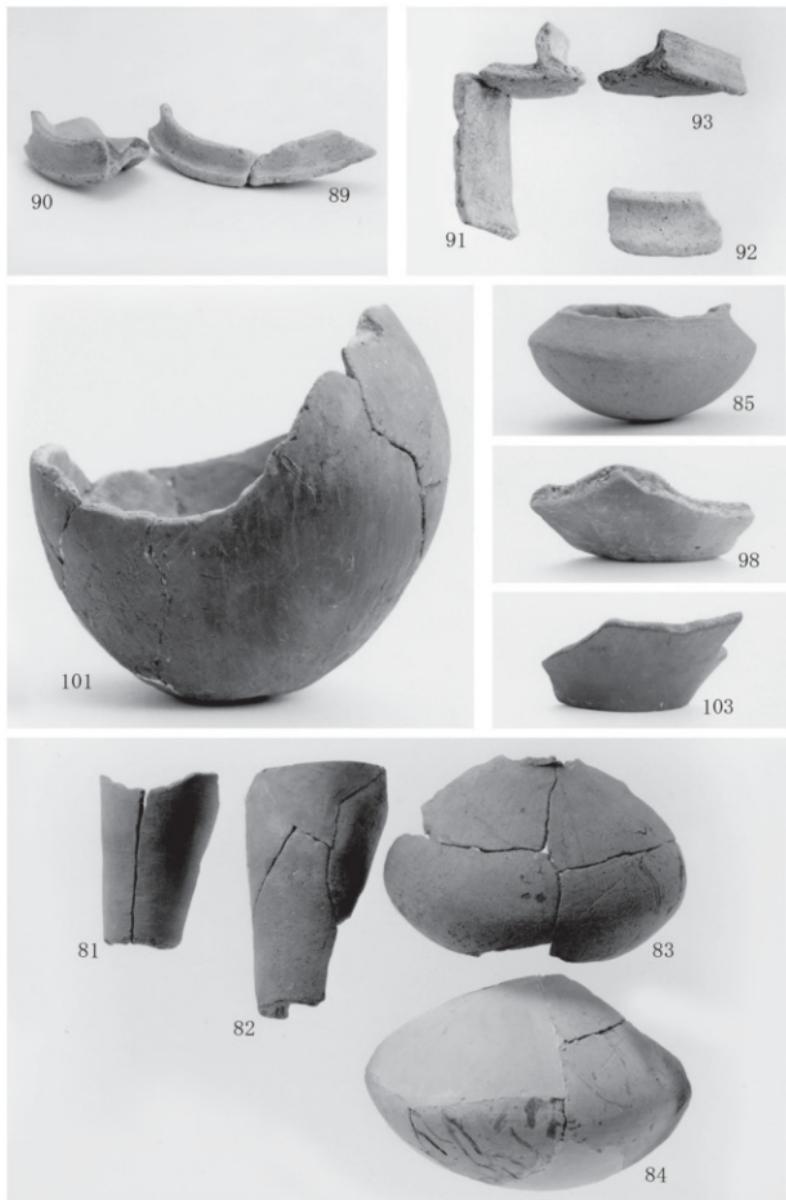


SD 2 最下層出土土器 3

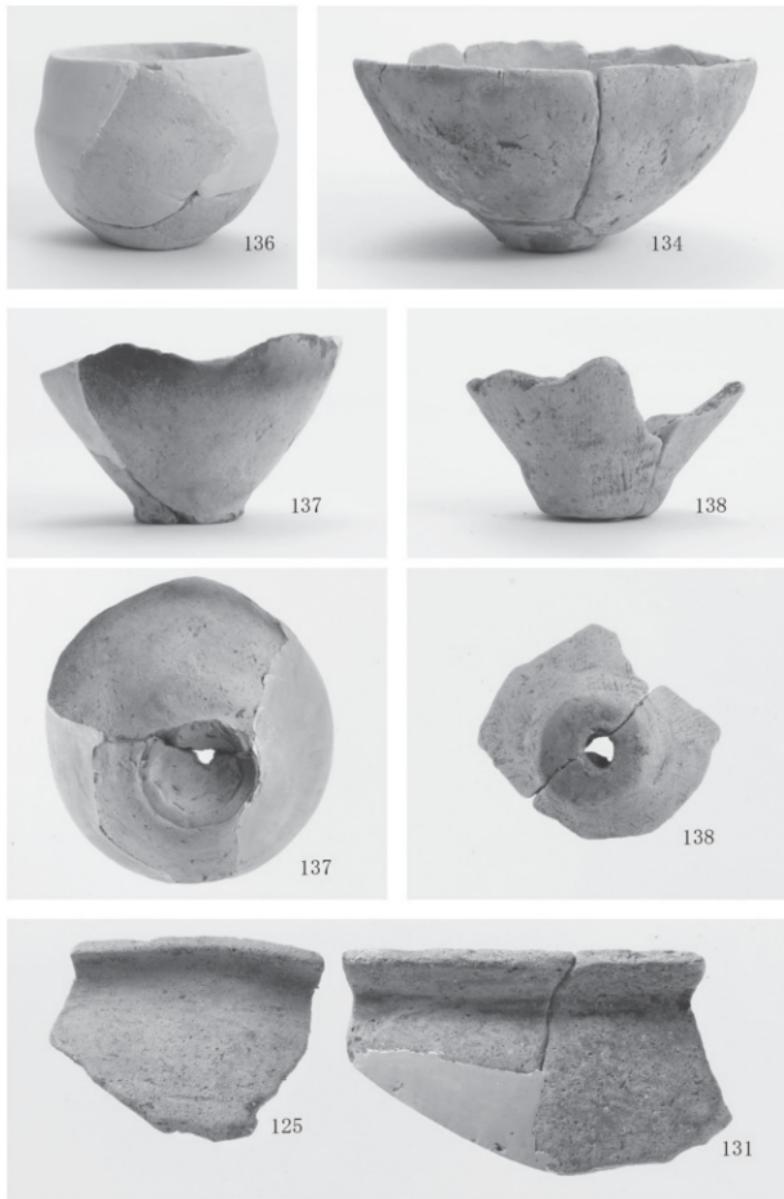


SD 2 最下層出土土器 4

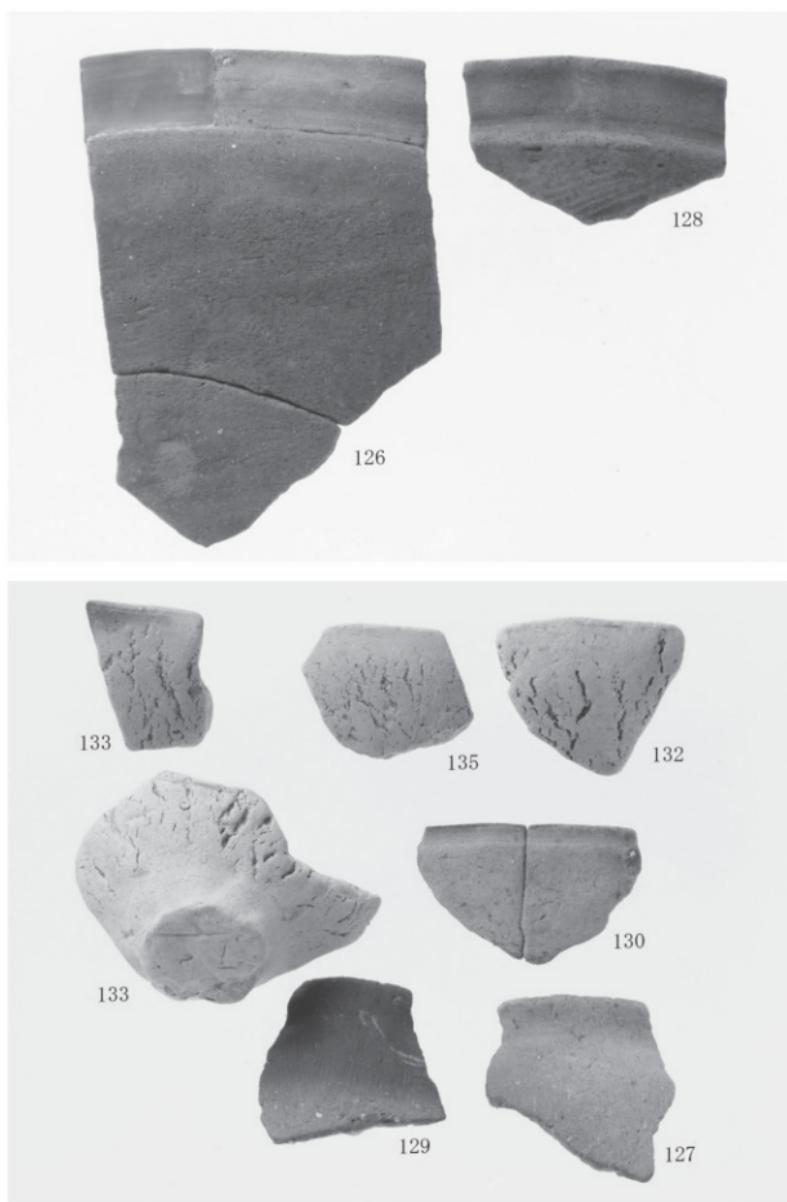
図版
15



図版
16

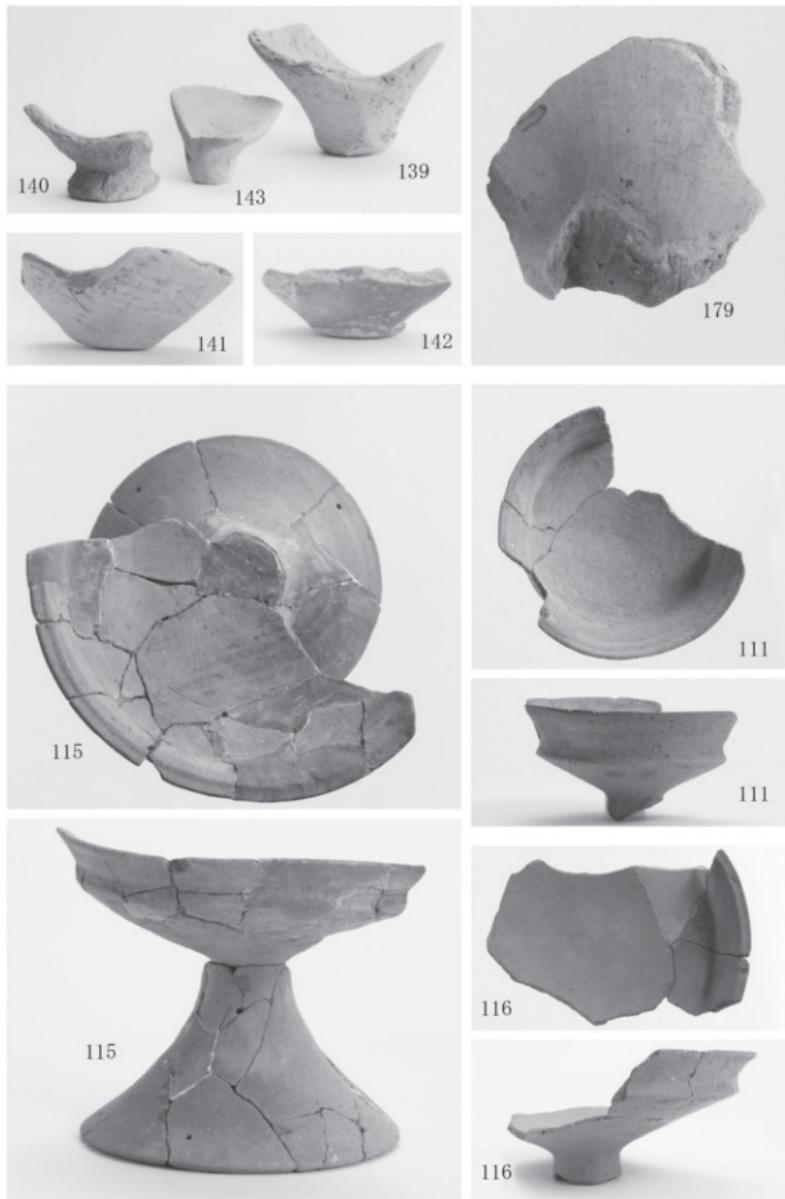


SD 2 最下層出土土器 6



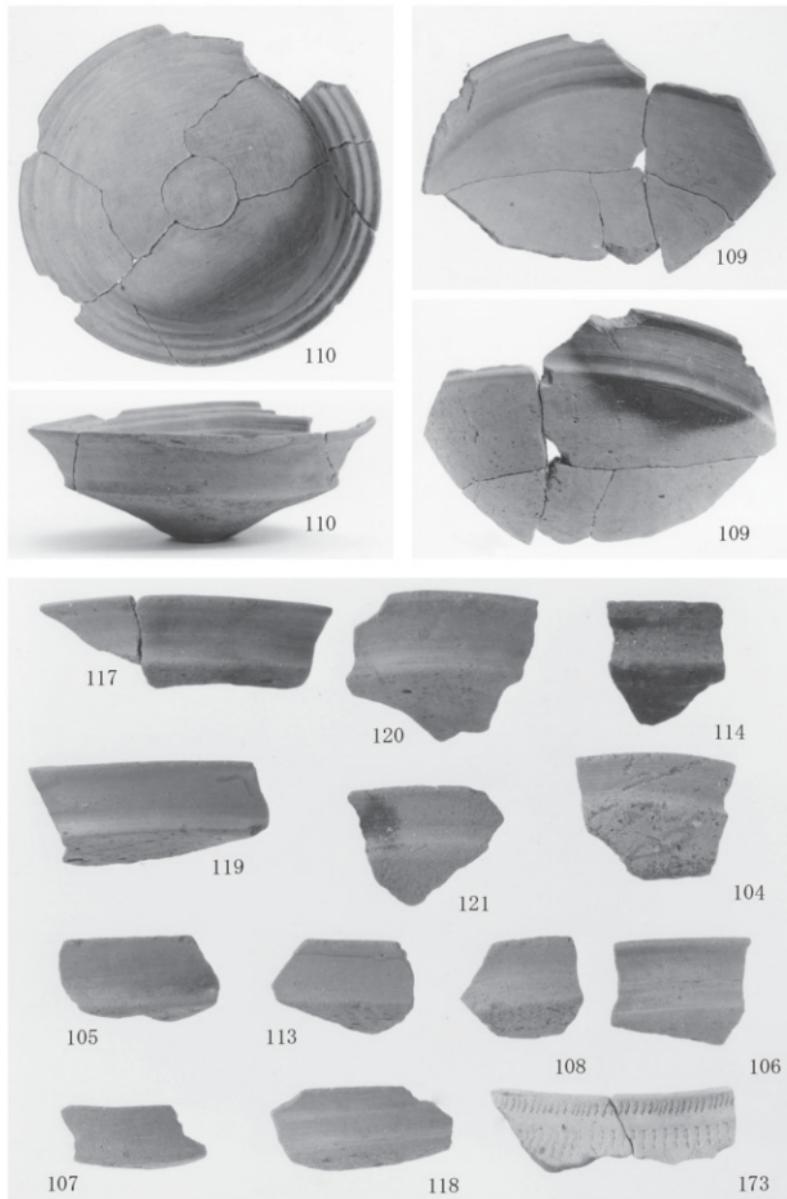
SD 2 最下層出土土器 7

図版 18

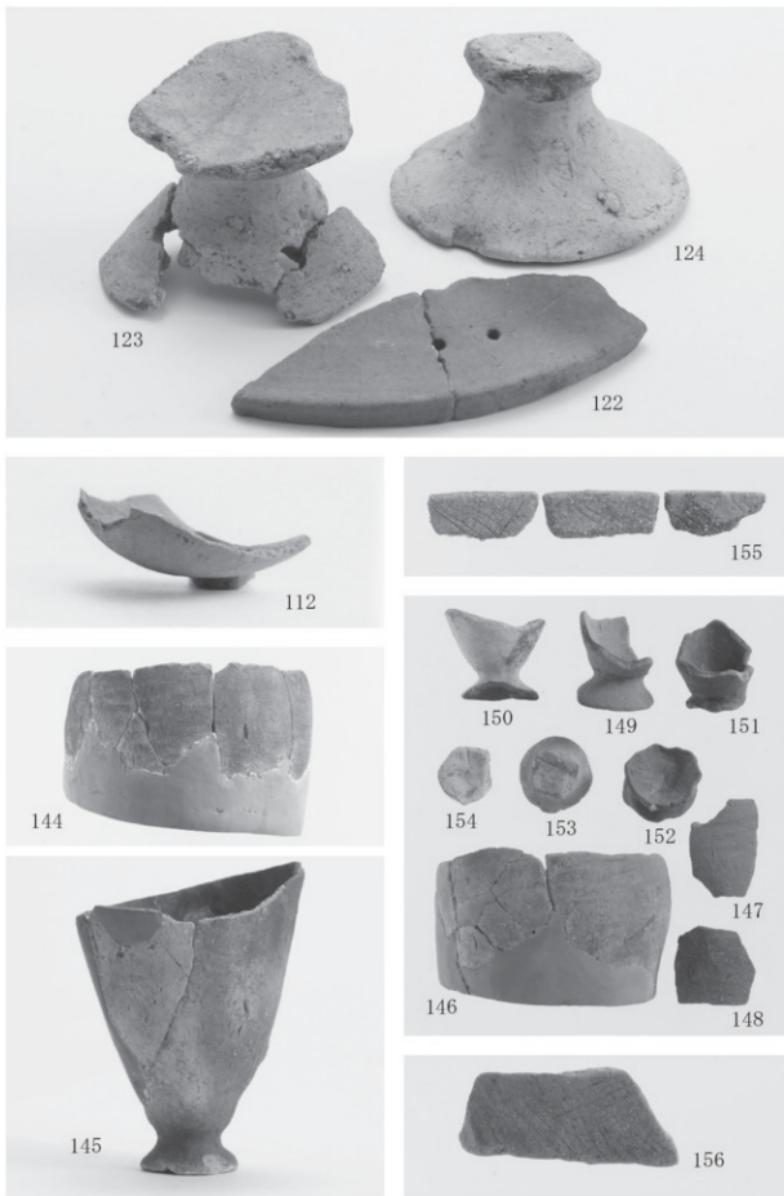


SD 2 最下層出土土器 8

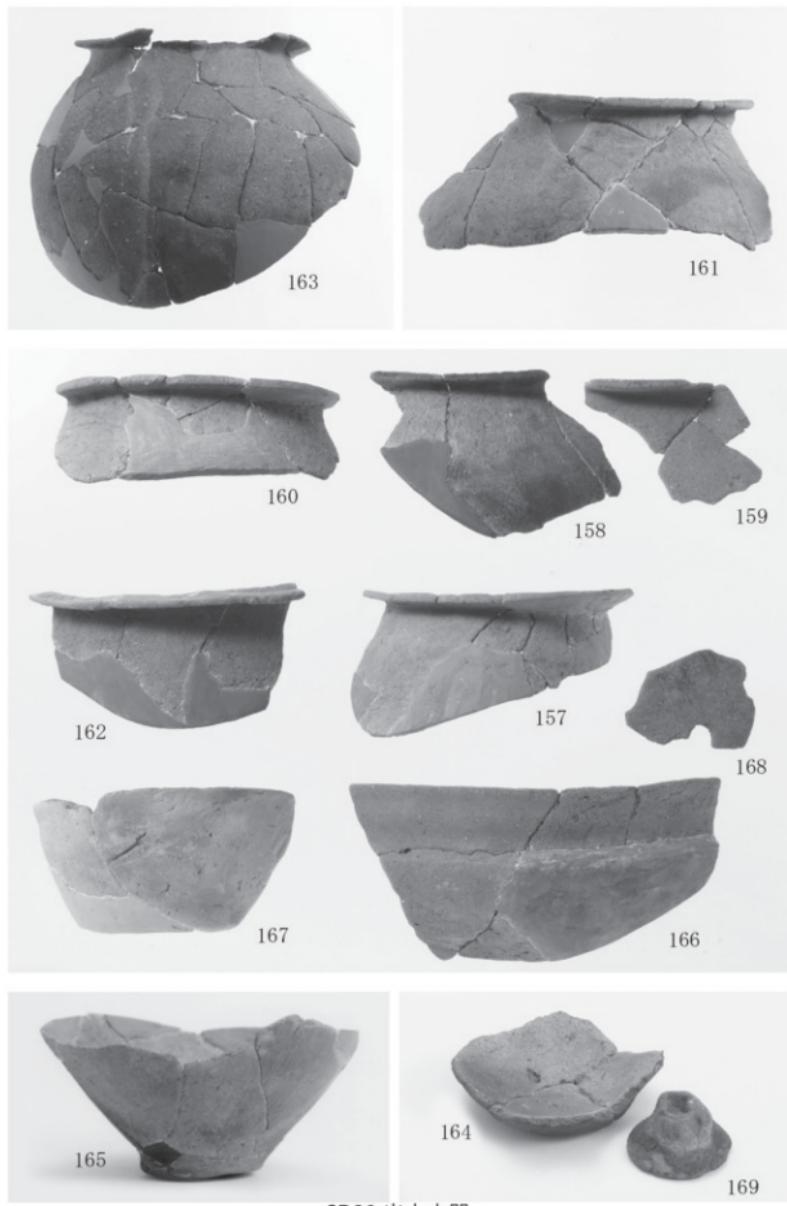
図版
19



SD 2 最下層出土土器 9



SD 2 最下層出土土器 10



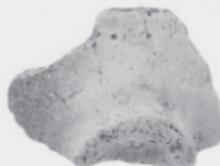
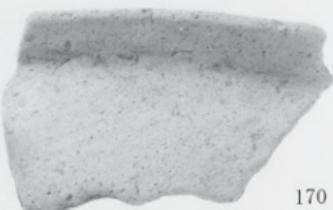
SD20 出土土器



SR10 西側出土土器



SD27 出土土器



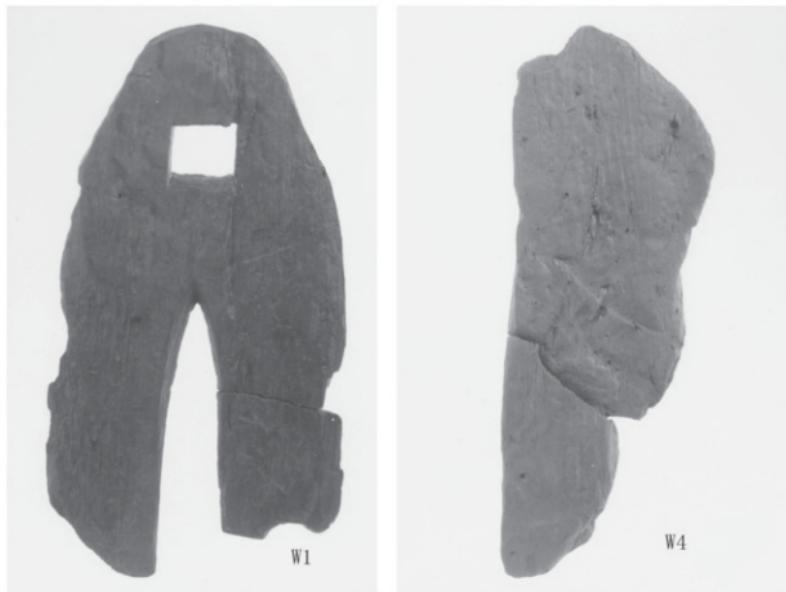
SD28 出土土器



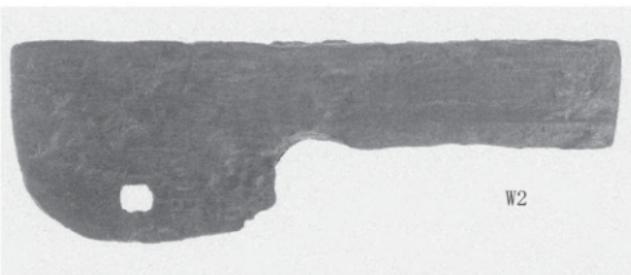
SD24 出土土器



SD30 出土土器



出土木製品 1



W2



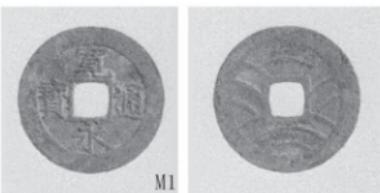
W12



W3



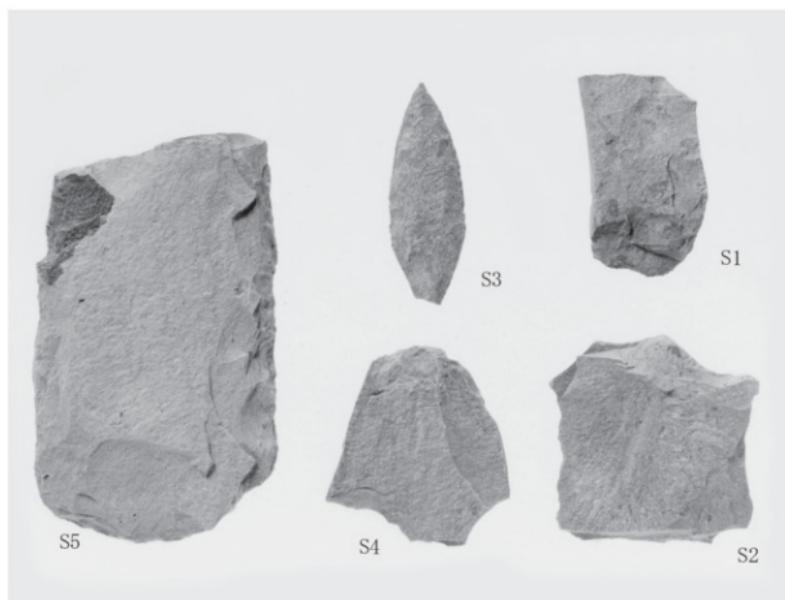
W15



M1



出土木製品 2・金属製品・植物遺存体



出土石器

報 告 書 抄 錄

ふりがな	くうこうあどいせき(かめのまちらく1)一だい2じちょうさ—							
書名	空港跡地遺跡(亀の町地区Ⅰ)—第2次調査—							
副書名	林コミニティセンター建設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書							
シリーズ名	高松市埋蔵文化財調査報告							
シリーズ番号	第171集							
編著者名	船塚 紀子、磯崎 福子							
編集機関	高松市教育委員会							
所在地	〒760-8571 香川県高松市番町一丁目8番15号 TEL.087(839)2660							
発行年月日	平成28年3月31日							
ふりがな 所収遺跡名	所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
空港跡地遺跡 (亀の町地区 Ⅰ)	高松市 林町	37201	KKKA-6	34° 17' 51"	134° 4' 34"	H25.10.21 ~ 10.23 H26.4.7 ~ 6.20	約 842m ²	林コミニティセ ンター建設事業
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項	
空港跡地遺跡 (亀の町地区 Ⅰ)	集落	弥生時代 古墳時代 中世	自然路、溝、土坑 溝、土坑 鋤溝		弥生土器、木製品、 石器 土師器、須恵器			
概要	空港跡地遺跡(亀の町地区Ⅰ)は、弥生時代後期中葉～後葉を中心とした集落の縁辺部分に位置する。当該期の溝から大量の投棄土器が出土したことから、近くに集落があったことを窺わせる。古代以降の条里地割の一部を確認したほか、戦時中の飛行場建設と旧高松空港の痕跡を強く残す。							

高松市埋蔵文化財調査報告第171集 林コミニティセンター建設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 空港跡地遺跡(亀の町地区Ⅰ) —第2次調査— 平成28年3月31日 発行 編集/発行 高松市教育委員会 高松市番町一丁目8番15号 印刷 藤田印刷株式会社 高松市北浜町4番5号
--